

善隣

No.473 通巻740

2016年（平成28年）11月1日発行（毎月1日発行）

2016 11



©国立西洋美術館

一般社団法人 国際善隣協会



©国立西洋美術館



©国立西洋美術館

善 隣 目 次 2016年11月号

公開講演会記録

満洲における近代空間形成についての
社会生態史学の試み安富 歩 2

地球温暖化とグリーンランド
ー北極圏氷河の融解竹内 望 11

イギリス離脱でもユーロは揺るがない伴野文夫 20

中国ウォッチング編・訳 上松玲子 28

出かけてみました

吉林省 長春市を訪ねて村田嘉明 30

陶々俳壇馬場由紀子選／岡 和良 31

協会通信・会員だより・同好会だより・編集後記 32

2016年11月の行事予定 33

善 隣 第473号 通巻740号

2016 (平成28) 年11月 1日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-5

一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03 (3573) 3051

FAX 03 (3573) 1783

発行人 矢野一彌

印刷所 (有)ゆにおんプレス

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

表 紙

国立西洋美術館

表紙裏

上：国立西洋美術館 19世紀ホール

下：国立西洋美術館 本館2階展示室

館 名 国立西洋美術館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7

開館時間 9：30～17：30 (冬期は～17：00)

金曜日は20：00

土曜日は常設展 9：30～20：00

企画展 9：30～17：30

* 入館は閉館の30分前まで

休館日 月曜日 (休日の場合は翌火曜日)、年末年始

URL <http://www.nmwa.go.jp/>

裏表紙

陶芸家・伊藤満氏の作品 (写真は本人提供)

満洲における近代空間形成についての 社会生態史学の試み

東京大学東洋文化研究所教授 安富 歩



満洲、中国東北地域は、中国においては本格的な開発がもっとも遅れた「辺境」のひとつであった。その寒冷的な気候と、

満洲族やモンゴル族、エベンキヤやオロチョン、ナナイ（ホジエン）といった狩猟、遊牧民族の地であったこと、清代においては、満洲族の祖地として清朝によって意図的に封禁されてきたことによって、漢民族の居住地に比べて格段に森林が残されていた地域であった。

清朝は漢人の移民を基本的に禁じる封禁政策を実施したが、それでも漢人の流入は続き、康熙年間に山東などで飢饉が発生するたびに増大し、関内および、山東省からの陸路、海路による漢人の流入は、17世紀、18世紀を通じて、増加した。これは、主として南満における、いわゆる

る民地の開墾をもたらした（石田興平 1964、30頁）。

その後清朝は、北満に植民を促すようになった。その契機は、16世紀後半からシベリアへ東進し、17世紀前半にかけて、黒龍江から南進を進めてきたロシアに対する辺防のためであった。当時兵站への軍糧の調達という必要性から、官荘屯田が奨励されたが、康熙年間に軍糧を抛出したのは主としてホルチンやハルビン西部一帯などの草原地帯であり、北西部の大興安嶺、北部の小興安嶺、東部の長白山系は依然大森林地帯として残されていた。また、ハルビンのすぐ東、東部満洲も、ウスリートラやアムールトラ、チョウセントラを王とする野生動物が生きるタイガと呼ばれる森であった。

ロシアの圧力が強まったことで清朝は、より組織的な統治の必要を感じるようになり、徐々に中国本土に近い政治組織を構築した。それに伴って「東三省」という言い方がなされるようになった。封禁政策の撤廃に伴って皇産が崩壊して一般人に払い下げられ、それと同時に急速に開拓が進んだ。この過程で深い森林が一気に失われていった。

この地域は、清朝時代には聖地として扱われており、そのために特段の名称がなかった。ここを呼ぶ場合には、清朝皇室の父祖が生まれた聖なる土地、というような婉曲が用いられた。

一方、日本人・ロシア人・欧米人は清朝からこの地を、違う名前と呼んでいた。それは「満洲」あるいは Manchuria

という系統の名である。いうまでもなくこれは、満洲族の出身地という意味でこのように呼ばれていたものと考えられる。この名称は中華民国期には、漢民族にも相当に受け入れられていた。たとえば共產党は一時期この地域を管轄する部局を「満洲省委員会」と呼称していた。九一八事変後の日本軍の侵略の本格化と「満洲国」の建国により、この名称が1945年まで支配的となった。

これと並行して中国人の民族主義者は、「東北」という名前を用いるようになった。張学良の軍隊は当時中国最強と呼ぶにふさわしい力を持ったが、それは「東北軍」と呼ばれた。この地に設立された大学も「東北大学」という名称を与えられた。ソ連軍の参戦により関東軍と「満洲国」とが崩壊すると、この名称が広く用いられるようになった。たとえば中華民国政府がこの地を接収するために派遣した部局は「東北行営」であった。

これ以降、現在にいたるまで、遼寧省・吉林省・黒龍江省に住む人々は、自らを「東北人」と認識するようになった。この地は強力な重化学工業と農業とを基盤とし、共產党の方針に従順に従うことで、社会主義の優等生として重要な地位を占めた。雷鋒のような人物の出現はそれを

象徴している。と同時にこの行動様式は、改革解放後の社会経済の流れへの不適合をもたらし、「東北病」と呼ばれる事態を生み出した。

私は、以上のような東北の近現代史の全体を視野に入れつつ、「満洲」という名称が支配的であった時期を主たる対象とし、その森林破壊と近代空間の形成が如何に生じたかについての共同研究を行った。この共同研究の成果は、安富歩・深尾葉子編『満洲』の成立、森林の消尽と近代空間の形成（名古屋大学出版会、2009年）として公刊された。

ここでは、この本の内容を簡単に紹介したい。

「満洲」に暮らしたことのある日本人は必ずと言ってよいほど、そこに沈む夕日の赤さを口にする。その夕日の赤さしかし、戦後の研究では無視されていた。我々の共同研究の動機は、比喩的に言うならば、この夕日の赤さの復元にあった。

この地域には、どのような人々の暮しがあり、それがどのように生態環境と相互作用しており、それがどのような権力関係を生み出していたのか。現場に暮らす人々が身体で感じられる「満洲」らしきとはどのようなものであったのか。こ

の「感じ」を学的手法をゆるがせにすることなく復元すること、これが我々が目指したところである。

我々の研究はまた、半世紀近く前に出版された、石田興平『満洲における植民地経済の史的展開』（ミネルヴァ書房、1964年）の成果の学的継承を目指している。この書物の「序」において石田は次のように述べた。

「一般的にいうて、植民政策ないし帝國主義的植民地活動に関する研究は多いが、植民地経済を、それ自体の再生産的循環ないし構造の史的形成並びに展開として、統一的行った研究は、これまでは殆ど見ることがなかったように思う。この点でも、この研究が新しい問題分野を開き、新しい研究領域の開拓にいささかも寄与出来れば幸いである」。

我々の目指すところは、まさにこの石田の切り拓いた領域への貢献であるが、その視野を経済にとどめず、生態系・社会・宗教・権力・疫病などを含めることが「再生産的循環ないし構造の史的形成並びに展開」の描写のために不可欠だと考えた。

はじめに、満洲の人口密度と都市分布を山東と比較するところからはじめよう。1930年代の山東省の人口は3千数百

万人であり、人口密度は1平方キロ当たり2百人を超える水準に達する（南満洲鉄道1939年）。一方、「満洲国」からいわゆる蒙地たる興安四省と熱河省を除いた地域の人口は、1940年の国勢調査によれば3655万人であり、山東省とほぼ同水準となる。広大な満洲に山東省と同水準の人口しかないのであるから、人口密度は遥かに低い47人であり、山東省の4分の1程度に過ぎなかった。

ところが一方、都市の大きさという観点からすると、満洲の方により大きな都市が分布していた。山東省において人口5万人以上の都市は、青島（47万人）・濟南（44万人）・芝罘（17万人）・威海衛（15万人）以下の11か所に過ぎない。ところが蒙地を除く満洲国には、奉天（114万人）・哈爾濱（66万人）・新京（55万人）をはじめとして人口5万人以上の都市が29か所もあった（東亜研究所1940年）。

このような事態を引き起こした最大要因は鉄道にある、と言ってよからう。満洲国瓦解の時点で比較して、満洲の鉄道密度は中国本土の10倍程度に達していた。単に量的なものばかりではなく、それは満洲の人口の空間パターンに決定的な影響を与えた。満洲の大都市の多くは鉄道

沿線に存在し、人口分布は鉄道沿線に集中する形を持つが、それは、鉄道が敷かれたことで、大都市が急速に形成されたためである。既存の大都市を結ぶように鉄道が敷かれた中国本土と異なり、満洲では鉄道が大都市を作り出した。これに伴って移民が、鉄道沿線から徐々に広がったため、人口分布も鉄道沿線をピークとして周辺に広がっていく形をとった。

鉄道の影響によって大きな変容を被って形成された近代満洲社会は、それに適合する市場構造を形成した。この構造は、中国本土のそれと大きく異なっていた。スキナー（1964年）に代表される一連の研究により、中国本土では定期市が広く観察され、鄉村社会の最も重要な機構のひとつであることが確認されている。

人々が徒歩等で比較的容易にアクセスしうるような密度で定期市があり、そこで自己の生産物を販売するとともに、生活物資を購入し、また各種サービスを受ける。定期市は単に経済的な機能のみならず、種々のコミュニケーションの結節点の役割も果たす。いくつかの村を包含するレベルの集市の上に、卸売の機能を持つより大きな集市、さらにその上のレベルの集市、というような階層性が見られるが、個々の集市は上層の単独の集市に

従属するのではなく、複数の上位の集市と関係するとされる。このように定期市は、重層的でネットワーク的な特性を持つ。山東省はそのなかでも人口あたりの定期市数の多いことで知られている。

ところが、満洲ではこのような定期市は稀にしか見られず、本土に見られるような重層的な定期市ネットワークが観察される地域はほとんどない。各県の県志とともに各種日本語資料を用いてその分布を調査した結果、満洲では京奉線沿線と朝鮮国境地帯に多少の分布が見られるに過ぎず、それ以外の地域ではほとんど観測されないことが確認された。

定期市網のかわりに満洲で機能していたものは、県城あるいは鉄道の駅が県全体の流通の独占的結節点となり、各地の農民がその中心地と直接に取引するという形態の機構である。我々は、石田興平（1964年、242～257頁）に従ってこれを「県城経済」と呼称した。県城に雑貨商・糧棧・大地主などが聯号等の形態で相互に連携しつつ存在し、通常は零細な店舗商人と行商人とを経由して農民と接触し、場合によっては秋の収穫を担保とした金融を供与する。収穫期には農民が馬車で農作物を運んで県城に現われ、県城の穀物問屋に生産物を直接販売

し、その関連の雜貨商から生活必需品を購入する。県城は奉天・哈爾浜といった大都市と移出入の交易・金融関係を持ち、この大都市は營口・大連などの港湾都市と関係を持つ。この港湾都市を通じて中国本土、特に上海と満洲の関係が結ばれる。石田は、このような中国本土―港湾都市―大都市―県城―農村と連なる樹状の組織の存在を主張したが、これは上述の重層的な網状の定期市機構と対照的である。

戦後に撮影された人工衛星写真を用いて山東と北部満洲との空間パターンの違いを見ると、前者では村落・鎮・県城の三層に対応するような構造が見受けられるが、後者では、県城が突出しており、あとは同じ大きさの村が並ぶという単純な二層構造が見える。これは県城経済の空間的表現であると考ええる。

このように山東省とは全く異なる市場機構が、満洲において山東出身の人々によって構築されたのはなぜであろうか。満洲で定期市網ではなく、県城経済が形成されるには、以下に述べるような諸要因が複合的に作用している。

最も重要と考えられるのはモンゴルから供給される馬である。20世紀になって漢人が急速に移民を開始する以前、満鉄

線より西の地域は概ね「蒙地」でありタルバガンの野に満つる草原であった。この草原でモンゴル人による牛馬の放牧が大規模に行なわれていた。漢人の入植につれて放牧地は農地に変じ、モンゴル人は西へ西へと追われて行った。ちなみにこのタルバガンの捕獲を漢人が始めたことで、ペストが猛威を振るうこととなった。

それでもモンゴル人の飼育する家畜の数は膨大であり、満洲の漢人は生活物資と交換に家畜、特に馬を容易に入手することができた。1930年代後半について見ると、蒙地以外の満洲における馬と牛の比率は2対1となっていて馬が主流であるが、山東では逆に1対6と圧倒的に牛が多い。絶対水準の比較は難しいが、人口千人当りの馬の頭数のデータを直接比較すると、満洲42頭に対して山東が12頭となっている。

馬は夏季には農耕に使用されるが、冬季になるとこれに荷車を継いで「大車」と呼ばれる荷馬車となる。この荷馬車の材料、特に車軸と轆をつくるのに相応しい広葉樹木材は、長白山系の鴨緑江流域から供給された。これらの広葉樹の堅木は比重が大きいので水送に向かず、輸送コストが大きい。清朝中期以降、満洲か

ら山東への木材移出が盛んに行なわれたものの、広葉樹材はほとんど移出されていない。更に、開拓が隅々にまで及んで森林に乏しい山東省では、このようなまとまった材木を省内で確保することはできない。つまり、満洲では荷馬車用材木を確保することができたが、山東では難しかったのである。

こうして満洲では冬になると農民が相当の頻度で荷馬車を利用しうることになった。冬の満洲ではその厳しい寒気のため、道路であろうと、畑であろうと、河であろうと全てが凍結する。こうして夏の間はぬかるみと著しい凹凸によって通行困難であった道路が、冬には完全な舗装道路に変じた。厳しい寒気は物資の保存にも貢献する。たとえば夏季に魚を捕獲してもごく狭い範囲にしか販売できないが、冬季結氷期に川の氷に穴を空けて釣られた魚は瞬時に凍結し、春まで融ける心配がない。こうして冷凍保存された魚は満洲全土に出回り、ロシアにまで輸出された。

鉄道敷設以前には、長春周辺の農民は数十台の大車のキャラバンを組み、營口まで往復1か月も掛る出荷・買付旅行を行なったという記録がある。満洲の農民の移動距離は、中国本土にくらべて遥か

に広がったのである。

但し、重要なことは、このような馬車輸送システムが広範囲で成立するためには鉄道が不可欠であった、という事実である。馬車材広葉樹は比重が水より重く、長白山系から切り出しても、川から流すのが難しかったため、鉄道敷設以前には供給量が限られていた。このため、19世紀末の段階では馬車生産地は木材供給地の近く、すなわち長白山系、および馬供給地、すなわちモンゴルとの境界地帯、などが重要であった。ところが、鉄道敷設後は、遼陽などの満鉄沿線の都市が有力となった。これは馬についても同様であり、鉄道敷設により、モンゴル地帯から南満・東満へと馬を輸送することが容易となった。各地の県志を見ると、「車店」と呼ばれる馬車による長距離移動の中継施設や、馬車にかかる税金についての記述は、19世紀末の段階では全く見られないが、鉄道敷設後に急激に出現頻度が高くなる。

鉄道が起爆剤となり、モンゴルの馬、長白山の森林、乾燥した厳冬という要因が結びつけられ、満洲では冬季に農民が県城に直接アクセスすることが可能となった。このような条件の下では県城に流通の末端機構を設置しておけば十分であり、

中国本土に見られるような県あたり数十か所もの定期市を設置する必要はない。

一般に定期市網の存在する地域に鉄道が敷設されると、商品流通量の急増によって定期市の急激な繁栄がもたらされることが知られている。これに対し満洲ではそのような定期市の増加は観測されていない。冬季の効率的な荷馬車輸送システムが形成されているところに鉄道が敷設されると、駅や県城への物流の集中が更に加速されたので、定期市はむしろ衰退したと考えられる。

このような物流の県城への集中は有力商人の県城への集中をもたらすので、政治力の県城への集中をもたらす。しかも彼等は各地の鎮の小商店や行商人を通じて農民と接触を維持しており、収穫期には直接農民と取引する。1920年代には農民への直接の金融が馬車担保や大豆の先物買という形で提供される慣習も広く見られた。それゆえ、満洲では山東に比して県城が県全体を統御する能力が高かったと推定される。

この両地域の違いがよく表れているのが、「私帖」の流通状況である。私帖とは民間の商店によって発行された紙幣のことである。黒田明伸（1996年）によれば、その流通範囲は中華帝国経済に

おける通貨流通の基本的な単位を反映している。周知の如く、通貨統合の問題は民国期の最も主要な政治問題のひとつであった。それゆえ私帖発行権限の県城への集中の度合を見れば、その地域における県城の県全体に対する統御力の強さを推定することができる。

山東省では、金融業者に限らず、種々の商店が私帖を発行する状態が長く続いた。錢帖の発行権は完全に商業慣習に依っており、官庁に許可を求めたりする必要はなかった。1925年には省政府により紙幣整理が試みられたが、すぐに省政府紙幣の信用崩壊が生じてその試みは中断された。法幣改革の影響により1936年に私帖の本格的回収が始まったが、これも日中戦争の勃発で頓挫する。1940年前後から「流通券」が頻繁に発行されるようになったが、県ばかりではなく、その下の「区」が流通券を発行する事例が多かった。

一方、満洲でも1916年の資料によれば、山東と同じような私帖発行が見られた。しかし辛亥革命前後から、これをより公的な通貨に置換する努力がはじまり、1917年10月2日の私帖禁止令は相当の実効性を持っていたとされる。1929年段階では、通常の私帖発行が報

告されている県は満洲全体で10県に満たない。こうして塚瀬進（1993年）が主張したように、満洲事変直前には、南満は現大洋票と朝鮮銀行券、北満は哈爾濱大洋票と官帖の流通が大半を占めるようになっていた。1931年の満洲事変勃発による金融梗塞に際し、満洲の県城商人は私帖発行で対処するのではなく、県ごとに有力者の構成する「金融委員会」等を結成し、県公署と協力しつつ「県流通券」などと称する紙幣を発行した。このような紙幣は数十県で発行されたが、県の下の「区」で発行された事例はない。

県流通券の発行主体たる「金融委員会」等は県城有力者の団体であり、満洲国建国の際にその主体とされた「治安維持会」等の組織と密接に関係している。治安維持会は日本側の強制によって設立された可能性を排除できないが、県流通券の発行はそうではない。それはむしろ幣制統一を指向する日本側の意向に逆行していた。事変勃発後各県に乗り込んだ自治指導員・県参事官は「県流通券」の流通を見て一様に驚愕しており、彼等の最初の仕事のひとつはその整理・回収であった。県城有力者の団体がこのような独自の活動を展開しえたという事実は、県城を中心として県を範囲とした政治的まとま

りの存在を示唆している。満洲においては日本側が脅迫にせよ懐柔にせよ何らかの方法で動員しうる政治的実体が県という比較的大きな単位（人口20万人前後）で存在したのである。

張作霖政権は1910年代に短期間で東三省の政治権力を統一し、20年代には中原に進出するが、この政治的急成長はこの県城一極集中経済がもたらす政治力の県城への集中と関係していると考えられる。県城に権力が集中しておれば、そこを抑えるだけで県全体を統御できることになるが、これはコミュニケーションの結節点がより低いレベルの市鎮に分散している場合よりも、遥かに統合しやすい。

このような機構は、廟会のありかたにも関連がある。

山東省では廟会は歳市の機能を担っており、定期市とならぶ重要な流通機構である。つまり、定期市が旬に何度という周期で開かれるのに対し、廟会は年に1回、場合によっては複数回開かれる。個々の廟会をつくりあげる人的ネットワークは、必ずしも村落などの特定のサイズや空間的社会的集団を背景にしているわけではないが、華北の場合それらが重層的、しかも自律的に廟を設立・運営している。

それぞれの地域では、廟会が自律的かつ競合的に並存しており、各々の廟会が参拝者をつくれるだけ増やそうとして、自ずから相互の日程が重ならないように設定されることになる。

これに対して満洲の廟会は全く異なった機構を持っていた。まず、満洲では「娘娘廟会」が圧倒的に優勢であるという特徴がある。この娘娘廟は女性のための子授けの廟で、中国全土で見られる普遍的な廟ではあるが、それが突出した重要性を持つことはない。しかも満洲では娘娘廟会の期日はほとんどの地域で農曆4月18日と決まっている。同じ日に広い地域で特定の神の廟会を一斉に開くという事態は、華北では見られない。また、廟会の開催日がどこでも一定しているという事態は、娘娘廟会だけではなく、天齊廟会（3月28日）、佛誕日（3月3日）、薬王廟会（4月28日）、関帝廟会（5月13日）という主要な廟会の会期についてもいえる。

また、華北では村を基盤とした廟会が優勢であるのに対して、満洲では村の廟会が脆弱であった。そのかわり、より広域を対象とした廟会が有力である。特に、大石橋迷鎮山娘娘廟は、南満洲鉄道や「満洲国」政府の後援を得たこともあり、

鉄道や馬車でやってくる何十万という人出を誇る廟会を持っていた。また、他地域では見られない、個人所有の小さな廟が各所に乱立するという景観が見られた。

こういった満洲における廟会の特異なありようは、村レベルでのまとまりが希薄であることを示唆している。そのかわり、より広域の政治権力が廟会というより文化的な面でも重要な役割を果たしていることが見てとれる。この特徴は、満洲の県域経済機構のありようと整合している。

この地域における近代社会の成立過程は、周知のごとく大豆の国際商品化過程と密接に関係している。塚瀬進（1993年、67頁）は、鉄道敷設と満洲農業の関係を詳細に検討し、鉄道の敷設が農産物の輸移出を促進し、それが移民の流入を刺激して耕地拡大を通じた生産力拡大を実現するという循環過程が作動しており、それが満洲の爆発的な成長に結果したことを明らかにした。すなわち、上述の鉄道・馬車・権力構造などの形成する相互作用体系も、大豆の国際商品としての急成長なしには、完結しないのである。

穀物の輸送を行なう必要があった。北行するときに大量の穀物を積んだ舟は、南行する際に適当な貨物を積み込まねばならなかった。華北・満洲でとれる大豆は、その格好の対象となった。

満洲大豆は当初、上海周辺の穀物畑に入れる肥料として需要された。アヘン戦争以降のヨーロッパの侵入により、蒸気船が就航するようになると、汕頭を経由した江南の需要が強まり、その地域の砂糖畑に盛んに投入されるようになる。

その後、日清戦争を経て、日本が大豆粕の需要者として出現した。日本は従来、金肥を国内でとれる魚肥などに依存していたが、このときから輸入大豆粕に大幅に依存するようになった。1920年代後半から30年代にかけて無機肥料が日本国内で大量に生産されるようになって一時的に依存は弱まるが、日中戦争開始以降は、無機肥料の原料たる硫酸などが軍需品となったことで、再度、大豆粕需要が高まった。

更に、日露戦争後に、主としてウラジオストクと大連とを経由して、満洲大豆がヨーロッパに輸出されるようになった。主たる用途はマーガリンなどを作るための油の原料としてであり、搾油過程で産出される大豆粕は飼料として用いられた。

このように20年代に急激な発展を遂げた満洲大豆は、満洲事変の勃発によって地域内流通が混乱し、また政治的混乱も原因となって生じた洪水などの被害が発生し、大きな打撃を受けた。その打撃から恢復しないうちに、1939年に第2次世界大戦が勃発し、ヨーロッパとの関係がほぼ切断される。さらに「満洲国」の農産物統制は大豆を安価に調達しようとしたもので、農民はこれに反発し、大豆の作付けを減少させていった。こうして、満洲大豆は急速に没落過程に入ったのである。

満洲における大豆栽培は、日本における肥料需要、ヨーロッパにおける油と飼料の需要に応じることで急拡大していった。しかし注意すべきは、大豆の栽培が可能であるというだけならば、華北でも条件は変わらない。実際、同時期の山東省では大量の大豆が生産されていた。にもかかわらず、山東の大豆はほとんど外部に流出せず、大半は県外に出ることすらなかった。これらの大豆は概ね、自家消費が中心であり、流通する場合でも地域内流通にとどまっていた。

ところが満洲大豆は大半が商品作物であり、しかもその多くが域外に移出された。この違いは自然条件によるものでは

ない。それは、社会的条件によるものである。つまり、鉄道を中心とし、馬車を補助とする強力な輸送網が形成されており、しかも金融の側面でも農民への直接融資などが可能になるほどに、県城商人の生産者との結びつきが強いという条件があった。この条件があったからこそ、満洲は大豆の商品栽培に成功したのである。

しかも、既に述べたように、このような条件を実現したものは、大豆の国際商品化であった。たとえば、南満洲鉄道は異常なほどの高利潤体質を維持したが、これは、高率の大豆輸送運賃のおかげであった。張政権もまた、大豆流通を、物流と金融の両側面から掌握することにより、大きな利益を獲得した。

張政権は大豆輸出を通じて、莫大な外貨資金を獲得した。この資金で近代兵器を輸入して兵力を飛躍的に増強させたが、この兵力増強は関内の軍閥間抗争での力量拡大のみならず、張政権の東三省内部の政治的基盤を強固することにも貢献したであろう。軍事力拡大による域内基盤強化は、県レベルでの同政権の権威を上昇させ、ひいては県城の農村支配力を高める効果も持ったはずである。

また、農民にしても、大豆生産が大幅

な搾取を受けるとはいえ、それが他の作物に比べて現金収入という点で有利であったがゆえに、こういった権力機構に順応したのである。そして一旦、商品大豆を生産したならば、農民はこれを県城商人に売却せねばならず、また売却代金によって県城商人から生活物資を購入する必要が生じる。これが県城商人を中心とする県城の支配力を強化することになる。

全ての要因は相互強化する循環関係を形成しており、この循環が急速に作動することで、「満洲」が成立したのである。

厳しい冬、大車、鉄道、大豆、経済・政治・人口の県城一極集中、張政権の軍備拡大等々はそれぞれに寄与し合い、相互にその効力を強める関係にあった。こうして形成されたシステムは20世紀初頭に作動を開始した。日本やロシアの帝国主義的投資もこのシステムの重要な一部を構成していたであろうが、このシステムの運動の「原因」ではない。この地域で形成されたこのシステムは20世紀前半期を通じて発展を継続し、辺境が先進地域となる「奇跡」を実現したのである。

一方、山東省は中国本土でも最も定期市の稠密に分布する地域であり、しかも多様な私帖流通が継続していた。この地域の鄉村社会は、県城一極集中型の満洲

と対照的に、重層的な網状組織を成していた。県城が全てのコミュニケーションの結節点であれば、その地点を破壊されると県全体の運動に不具合をきたす。ところが重層的な定期市網で構成される流通機構は、県城を占領されてもネットワークの形状を自律的に変形することで活動を維持しうる。山東省に魯南、清河、膠東、魯中、濱海といった有力な抗日根拠地が形成され、東三省に満洲国が形成されたという運命の対比は、上のような市場構造の差異とも関連しているのではなからうか。

20世紀初頭のこの地域の社会の変容は、多様な要素が相互促進の関係にはいることで、急速に成長する、というダイナミクスによって実現されたものと考ええる。すなわち、厳しい冬、大豆、長白山の広葉樹、モンゴルの馬、匪賊、華北からの移民圧力といった要素は、それぞれ独立では大きな変化を引き起こすものではなかった。それゆえ満洲には華北からの移民が漸進的に増加してゆき、華北と同様の社会機構が少しずつ形成されていった。ところが、そこに鉄道の敷設という要素が加わったとき、事態は一挙に転換した。

長白山の広葉樹とモンゴルの馬が広範囲に接続され、馬車輸送システムが全満

で形成された。馬車は冬季の凍結した大地の上を疾走し、鉄道駅と後背地を直接接続し、皇城経済を形成した。鉄道によって港に運ばれた大豆は、中国本土、日本、ヨーロッパへと輸出され、莫大な外貨をもたらした。この資金が鉄道を支え、権力を強化し、移民を惹き付け、開拓を推進せしめ、大豆の生産を拡大した。この巨大な渦に呼び込まれるようにして、数え切れぬ数の中国人、ロシア人、日本人がなだれ込み、さらに巨大な渦を作り出していった。バイコフの愛した「樹海」を切り刻み、そこに生きる生き物を殺戮したのはまさしくこの渦であり、それが近代「満洲」を創り出したのである。

参考文献

石田興平1964年『満洲における植民地経済の史的展開』、ミネルヴァ書房。
黒田明伸1996年『二〇世紀初期太原県にみる地域経済の原基』、『東洋史研究』第54巻第4号、103～136頁。
東亜研究所1940年、『省別に見たる黄河流域地誌其ノ一（山東省）』資料丙第113號D（二委内一・中間報告・第8號）。
塚瀬進1993年、『中国近代東北経済史研究』、東方書店。

南満洲鉄道株式会社調査部 1939年、『支那に於ける聚落（人口）分布の研究—（山東省）—』、満鉄調査研究資料第9編、（田中盛枝）。

Skinner, G. W. 1964年5月『Marketing and Social Structure in Rural China, (D-III), 《Journal of Asian Studies》, Vol. XXIV, No.1-3. (2016年6月9日・公開フォーラム)

講師略歴（やすとみ あゆむ）

1963年大阪府生まれ。
京都大学経済学部卒。（株）住友銀行勤務を経て、京都大学大学院経済学研究科修士課程修了。博士（経済学）。
京都大学人文科学研究所助手、ロンドン大学政治経済学学校滞在研究員、名古屋大学情報文化学部助教授、東京大学総合文化研究科助教授、情報学環助教授、東洋文化研究所准教授を経て現職。
主な著書『満洲国』の金融』（創文社、1997年）、『貨幣の複雑性 生成と崩壊の理論』（創文社、2000年）、『満洲暴走 隠された構造 大豆・満鉄・総力戦』（角川新書、2015年）、『ありのままの私』（ぴあ、2015年）、『経済学の船出—創発の海へ』（NTT出版会、2010年）

共著『満洲』の成立 森林の消尽と近代空間の形成』（名古屋大学出版会、2009年）

地球温暖化とグリーンランド

―北極圏氷河の融解

千葉大学大学院理学研究科教授 竹内 望



はじめに

解ける北極の水に世界の注目が集まっている。北極海を白く覆う海水は、今年2016年の夏、2012年に次ぐ観測史上第2位の最小面積を記録した。いままではほとんど解けることのなかったグリーンランドの氷河の頂上部も、2012年の夏に全面融解したことが大きく報道された。この北極の水の融解の原因の一つは、地球温暖化による気温上昇である。

当初より地球温暖化が北極に与える影響は予想されていたが、今大きく注目されるのは、その予想を上回るペースで氷の融解が進んでいるためである。つまりそれは気温上昇以外にも、氷の融解を加速

させる未知のプロセスの存在を示唆している。北極の水の融解は、気温上昇を加速させる効果があるほか、海水準の上昇や北極海航路の開通など、我々の社会に直接的に大きな影響を及ぼす。予想を上回る速さで融解するその原因とは、一体何なのか。最新の研究成果と我々日本の研究グループが毎年夏に行っているグリーンランド氷床での現地調査を紹介しながら、北極の融解の現状と地球の気候システムの不思議に迫ってみたい。

北極とはどんなところか？

北極とは、一般に地球の自転軸の北端である北極点を中心とした周辺地域のことを指す。より正確に北極を定義すると

すれば、北緯66度33分以上の地域とすることができ、この領域は北極圏と呼ばれている(図1)。北緯66度33分とは、夏至に一日中太陽が沈むことのない場所の南限である。つまり北極圏とは、夏に白夜、冬に極夜が存在する地域である。北極は年間を通じて雪に閉ざされた極寒の世界と思われることも多いが、夏は日が沈まないため氷点を上回る暖かい日が続くこともあり、陸上では雪が解けて色とりどりの小さな花が咲き乱れ、北極とは思えない景色が広がるところもある。北極点は北極海上に位置するため、北極圏の中心部分は海である。北極圏の辺縁には、北極海を取り囲む北欧、シベリア、アラスカ、カナダ、グリーンランドなどの陸地が存在する。この陸に囲まれた海

という北極の地理条件は、海に囲まれた陸である南極とは対照的で、北極特有の気候条件を作り出す一つの要因となっている。とくにこの地理的条件であるがゆ

えに、地球温暖化のような気候変動に対し、同じ極域でも北極は南極よりも敏感に反応するのである。グリーンランドは、その北極海を取り

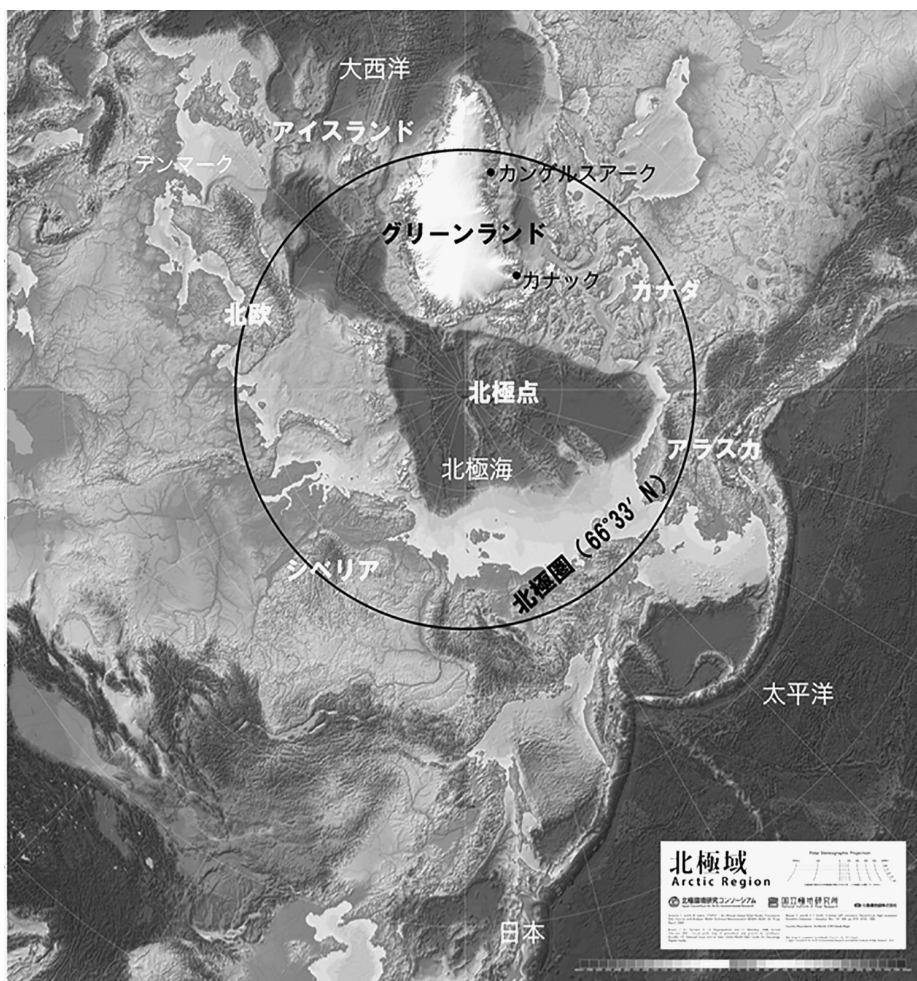


図1 北極域の地図（北極環境研究コンソーシアムより）
北極圏を定義する北緯66度33分を黒い輪で示した。また、本文中に出てくる主な地名を地図中に示した

囲む陸地の中でも、唯一厚い氷に覆われた特別な場所である。グリーンランドは面積217万km²の島で、日本の国土の約6倍に匹敵し、世界最大の島としても知られる。その面積の約8割は氷河と呼ばれる厚い氷で覆われている。その氷河の厚さは平均で1600m、最も厚い部分の頂上の標高は3216mにもなる。グリーンランドを和訳すれば緑の土地となるが、ほとんどが氷に覆われた現実の島の状態とは、その名前はかけ離れている。なぜこの島がグリーンランドと呼ばれるようになったのか、それについてはいくつかの説がある、一つは今からおおよそ千年前、北欧の海賊ヴァイキングがこの島を発見した当時、現在よりも草木が生い茂っていたという説である。別の説では、もともと氷の島、アイスランドという名前がついたが、現在その名がついているグリーンランドの東隣の島と名前が入れ替えられてしまったという。いずれにしても、実際のグリーンランドは名前とは相反する氷の島である。この島を覆う巨大な氷は、あとに説明する通り現在の地球環境の維持のために重要な役割を果たしている。それゆえ、今この氷に起こりつつある異変に世界中の研究者が注目しているのである。

我々日本の研究者グループも、2011年よりこのグリーンランドの氷の本格的な調査を行っている。氷河および気象の専門家が集まったグループが、学生を含めて毎年数名から10名ほどのチームになって、現地に長期間滞在し様々な調査を行っている。日本からグリーンランドに行くためにはまずデンマーク王国の首都、コペンハーゲンをめざす。グリーンランドは、デンマークの一部だからである。コペンハーゲンから真っ赤な機体が目立つグリーンランド航空という航空会社の飛行機で、4時間ほど大西洋を横断するとグリーンランドの玄関口のカンゲルスアークという街に到着する。大部分が氷におおわれているグリーンランドにも、いくつもの街または集落があり、多くの人が生活している。人口はグリーンランド全体でおよそ5・6万人。その多くは古くから広く北極周辺を生活の場としてきた、いわゆるエスキモーまたはイヌイットと呼ばれる人々である。かつて狩猟採集民族として生きてきた彼らの集落にも、現在はスーパーや病院もあり、電気や携帯電話、インターネットも通じる。我々日本のグリーンランドの調査隊が研究を行っているのは、グリーンランドの北西部の氷河でカナックという集落

から近い場所にある。カナックへは、週に1往復している定期便で行くことができる。我々がカナックに滞在するときは、現地の方に貸していただいた一軒家で共同生活をしている。食事は、スーパーで食料を買い出して自炊する。スーパーに並ぶ商品は、海水が解ける夏の間にデンマーク本土からの補給船で年に2回だけ届けられる。時期によっては野菜等の食材が限られることもあるが、特に問題なく和洋食の普通の食事を作ることができる。時々現地の方に、地のものを差し入れていただくこともある。クジラやジャコウシの肉、キビアックと呼ばれる発酵させた海鳥など、ここでしか味わえないイヌイット伝統の貴重な食材を口にすることもできる。

グリーンランドに滞在して驚くことの一つは、厳しい環境の中に非常に多くの野生動物が生息していることである。海にはよく知られるシロクマやアザラシ、クジラなどの大型哺乳類の他、ウミスズメなどの鳥類、オヒョウやホッキョクイワナなどの魚類が生息している。陸には、トナカイやジャコウシなど、北極特有の大型動物が生息している。これらの大量の動物の存在は、イヌイットの人々が緑のない土地で長く生活を可能にしてき

たことを、我々に納得させる。野生の食料資源が豊富ということは、寒さ厳しい環境からは想像しにくい北極の意外な一面である。

グリーンランドには、素朴なイヌイットの集落とは対照的なもう一つの顔がある。米軍基地である。デンマークとアメリカとの間の冷戦期の取り決めにより、グリーンランドには米軍の空軍基地が存在する。先ほどのイヌイットの集落、カナックから南へ約130kmの所にはチュール空軍基地がある。冷戦期には1万人以上が滞在する大きな基地だったというが、現在は規模が縮小されて維持されている。冷戦期にはさらにそのチュール空軍基地から東へ200kmほど内陸に入った所に、氷河の中の秘密基地がつくられていた。キャンプセンチュリーと呼ばれたその基地は、氷の地下10mほどに、千人規模の軍人が滞在する基地だったそうである。対ソ連のために作られた軍事基地であったが、当時研究者も基地を訪れ、その時の調査はグリーンランドの氷の研究の進展に大きく貢献した。しかし動く氷河の中の基地の維持は難しく、わずか8年で閉鎖されたという。氷の中の秘密基地というと、スターウォーズのようなSFの世界を思い出すが、実際には現実の世界

がSFのモデルになったとのことである。

北極の水は本当に解けているのか？

北極の水が本当に解けているのか、またどれくらい解けているのか、実際に研究者が北極で調査してきた結果をみてみよう。北極の水といっても、実際にはいろいろな種類の水が存在する。海水が凍って海にできる海水、雪が何年も積もって氷に変化した陸上の氷河、さらに土壌中の水分が凍った永久凍土、河川や湖沼の水が凍った氷などがある。ここでは、特に目に見えて面積または体積が減少している海水と氷河についてみていきたい。氷が解けているといっても、実は海水も氷河も毎年夏には必ずその一部が解けており、これは異常なことではない。先ほど述べたように、北極といっても夏には気温が氷点を上回るため雪氷は解けるのである。しかし、冬になれば再び凍結するので、もし夏に解けた海水の分だけ新たに海水が凍結し、氷河も解けた分だけ新たに雪が降れば、1年を通して氷の量は変化しない。このような季節による融解と凍結による氷の変化を季節変動という。しかし今注目する北極の水の融解とはこの季節変動ではなく、長期的な年々

変動である。夏の融解量が冬の凍結量を上回ると年を越えて氷の量は減少する。数年から数十年のスケールで、氷の面積や質量はどのように変化しているか、そのことが地球規模の気候変動の関係を考える上で重要な意味をもつ。

北極の水は規模が大きいので、その量

の変化を測るのは、それほど簡単なことではない。ただでさえわずかな人しか住んでいないため、北極圏には気象や氷の観測所は限られた数しかない。また限られた場所での観測を行っても、氷の全体の変化を正確に見積もることは難しい。しかし1970年代に、人工衛星による地球

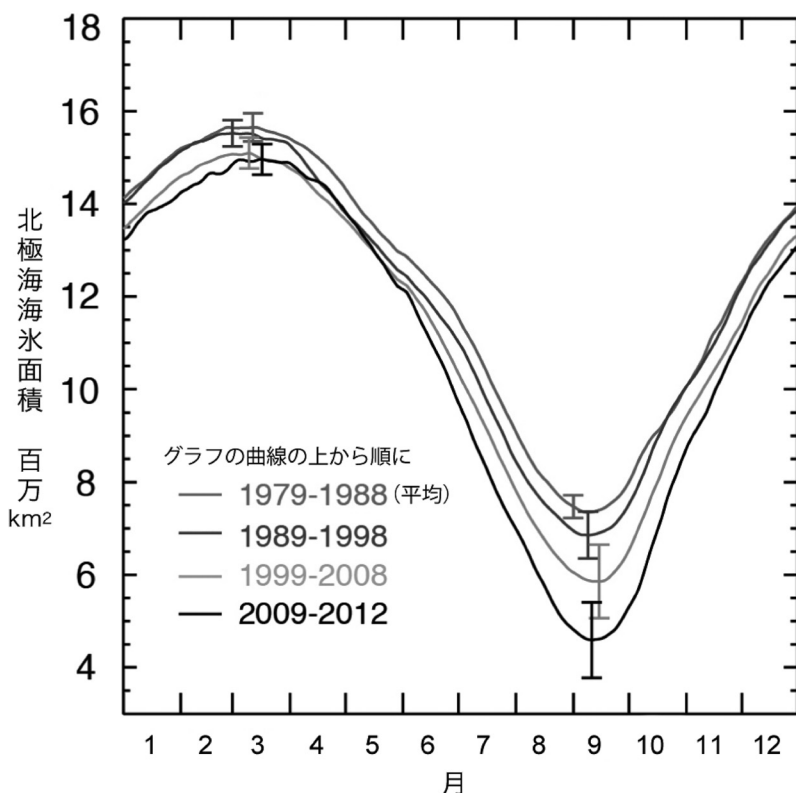


図2 北極海の水氷面積は季節変動 (IPCC Report AR5、2013より)
9月の最小面積は、1980年代から2010年代まで徐々に減少していることがわかる

観測が実用化した。現在、北極の水の全体的変化をみる手段の一つとして、人工衛星が用いられている。北極海の海水は、毎日地球観測衛星によって面積が観測されている。現在、その面積の変化はホームページでリアルタイムに誰でも見ることができる。海水面

積は、気温の下がる冬に増加し、夏に減少するという季節変動を示す(図2)。

面積が最大となるのは毎年2月中旬で、最小になるのは9月中旬である。衛星観測が始まった1978年からの面積変化の記録によると、例えば1980年代には冬の最大面積が1560万km²、夏の最小面積が723万km²という大きな季節変動をしていることがわかる。夏の最小面積に注目すると、1990年代の平均は655万km²、2000年代の平均が548万km²と着実に小さくなってきている。さらに2012年の夏に、観測史上の最小面積318万km²が記録された。これは、1980年代の半分以下という衝撃的な面積である。ちなみに今年2016年の最小面積は402万km²となり、2012年に次ぐ2番目の最小記録となった。

一方グリーンランドの水河は、数万年間の雪が積もってきた陸上の厚い氷の塊であり、海水が凍った海水とは違い毎年面積の変化はそれほど大きくはない。水河の変化を見るときには、面積よりもその氷の厚さの変化、より正確に言えば氷の質量を観測しなくてはならない。海水のように人工衛星から単に面積をみるだけでは質量の変化はわからないので、同じ人工衛星でも全く別の方法を使って

観測する。巨大な氷の質量を観測する方法の一つは、重力観測衛星による地表面の質量分布の観測である。この衛星は、地表面の微妙な重力の変化を検知することにより、氷を含むあらゆる物の地表面の増減を観測することができる。ただし検出できる重力には限界があるので、あまり細かい変化をみることはできない。もう一つの方法は、衛星に搭載したレーザー高度計による地表面高度の観測である。衛星からレーザーを照射しその跳ね返りの時間を測定して、氷床表面の標高をセンチメートル単位で計算し、その年々変動を観測する。さらに衛星による空からの観測だけでなく、氷河上で人力による年間の融解量と積雪量の観測も行われている。以上のそれぞれ別々の方法による観測結果はほぼ矛盾なく、氷床が近年急激に減少していることを明らかにしている。夏の融解量から冬の積雪量を差し引いた年間の氷の収支は、2150億トンのマイナスとなっている(2002-2011年平均、IPCC)。つまり毎年2150億トンの氷が解けて海へと流出している。その量は、琵琶湖の水量275億トンの約8倍である。

このような氷の減少は、調査で現地を訪れると様々な場面で現実に起きている

こととして感じることができる。グリーンランドに生活するイヌイットの人たちは、冬の間、海水の上を犬ぞりを使って遠方まで狩りにでかけるが、最近秋の海の凍結の遅れ、または春の融解の早期化が顕著となり、狩りに出かける期間が短くなっているという。さらに犬ぞり旅行に出ても、真冬なのに氷がとけて海水面が部分的に現れていたり、海水が薄くなったりして海水上の旅行が昔よりも難しくなっているという話を聞く。また、もともと氷河の下にあった地表面が氷の融解によって出現し、新たな鉱物資源が発見されることもある。そのため、近年グリーンランドには、デンマーク内外から企業による資源開発の波が押し寄せている。これも氷の減少がもたらした社会の変化である。

さらに北極の氷の減少は、現地だけでなく我々の日本を含む地球全体に大きな影響を及ぼすこともわかってきた。北極海の海水は、鍋のフタに例えることができる。フタがなくなると北極海に蓄えられていた熱および水蒸気は大気に伝わり、周辺の大気循環や降水量を大きく変える。2014年2月に関東を襲った大雪が記憶に新しいが、北極海の海水の減少がこのような日本を含む中緯度帯の厳冬や大

雪の原因になる可能性が指摘されている。さらに太陽光を跳ね返す役割がある白い海水のフタの減少は、日射熱の海水への吸収を許すため、北極海の水温を変えて植物プランクトンの成長に影響し、海の生態系も大きく変えうることもわかってきた。グリーンランドの氷河の存在は、世界の海洋をめぐる深層循環という大規模な海流の駆動力となっていることも知られている。グリーンランド沖の北大西洋で海水が深海に沈み込むことで始まるこの深層循環は、グリーンランドの融解が進むことで弱まることになっており、そのことによって北欧や北米の寒冷化など、大規模な気候変動が引き起こされる可能性がある。さらに、グリーンランドの氷河の融解は、次に説明するように世界の海水面上昇の原因にもなる。このように北極の水は、地球環境の要といえるだろう。

氷河とは何か？

グリーンランドの8割を覆う巨大な氷河は、グリーンランド氷床と呼ばれる。ここでこの氷河または氷床とは何かをもう少し説明しておきたい。氷河とは、文字通り氷の川であるが、正確には重力に

よって動く雪と氷の塊と定義される。氷河は、海や河川、湖沼などの水がその場で凍った氷とは全く異なる。毎年降った雪が夏になっても解けずに何年も積もり続け、やがてその雪の自重による圧密で雪が氷へと変化し、さらにその氷が重力によってゆっくり変形しながら動いていくものを氷河と呼ぶ。氷河の中でも大陸を覆うような巨大な氷河を、氷床と呼ぶ。現在、地球上で氷床とよばれる氷河は、南極氷床とグリーンランド氷床の2つだけである。氷床よりも規模は小さくなるが、アンデスやヒマラヤなどの高山やアラスカやカナダなどの極域周辺にも氷河は多数分布している。

地球は水の惑星と言われるが、その水の97%は海洋に存在する。しかしあまり知られていないが、海洋に次いで水が存在する場所は、我々の身近にみる河川や湖沼ではなく、氷河である。その量は約2万8千兆トン、地球全体の水の量の2%に相当する。さらにその氷河の水の90%は南極氷床で、9%がグリーンランド氷床、のこりの1%がアラスカやヒマラヤを含めたその他の氷河である。氷河の解け水は、河川を経由して海へ流れ込む。海水は蒸発して、水蒸気となって陸上へ移動し、一部は雪として再び氷河に積も

り、また一部は雨として降って河川となり海へ帰る。このような地球をめぐる水の流れを水循環という。水循環は、人体という血液の循環と同じで、地球表面のさまざまな物質循環を担い、気象現象や地形の形成の原動力となり、生態系の維持にも欠かすことができない。地球スケールの水循環の中で氷河の機能は、人体の血液循環に例えれば、流れる血液の量を調整する肝臓に相当する。気候が温暖化すれば、氷河は解けて流れる水の量は増加し、反対に寒冷化すれば、氷河は拡大し流れる水の量は減る。肝機能の変化が我々の健康に重要な意味をもつと同じように、氷河は地球環境のシステムの中で重要な役割を担っているのである。

海へと流れこむ氷河の解け水は、広い世界の海の面積を考えると些細な量のように思えるかもしれない。しかしながら、南極やグリーンランドの氷床の大きさから計算してみると、その量は世界の海水面を押し上げるほど無視できない量であることがわかる。例えば、グリーンランド氷床の場合、氷床の面積180万km²に平均の厚さ1640mをかけると氷床の体積が求まり、それに氷の密度0.9g/cm³をかければ、氷床の水の量(質量)が2657兆トンと求まる。地球の海の

面積は、半径6400kmの球の面積の7割とすれば、球の表面積の公式を使って3・6億km²と求まる。氷床がすべて解けて海に流れ込んだ時の海水面の上昇量は、求めた氷床の水の量を海の面積で割ればよいから、計算すると7・4mとなる。7・4mの海水面の上昇は、世界各地の島国および沿岸沿いの都市に多大な影響を与える。東京の場合、東京湾に面したベイエリアや荒川・江戸川沿いの低地帯は、すべて海に沈むことになる。さらに、南極氷床はグリーンランド氷床の約10倍の体積を持つことから、解けた場合の海面上昇量は、グリーンランド氷床の10倍、約74mとなる。これだけ海水面が上昇すれば、世界の海岸沿いの都市はほぼ壊滅するだろう。しかしながら、南極はグリーンランドに比べ平均気温が低いため、多少地球が温暖化しても南極氷床はすぐに解ける心配はない。地球温暖化で最初に解けるのは、気温が比較的高い中にあるグリーンランド氷床なのである。現在の融解速度（年間質量減少量）は、南極氷床が1470億トン、グリーンランド氷床は2150億トンと見積もられており、実際にグリーンランドの方が融解量は大きい。これが氷河の中でもグリーンランド氷床の融解を注視しなくてはな

らない理由である。

なぜ北極の氷は予想以上に速く解けるのか？

北極の平均気温の上昇は、水を徐々に解かしていくことは間違いないが、現在観測されている海水や氷河の融解量は、10年前に計算された予測をすでに上回り、気温上昇だけでは説明がつかないほどに急速に増加していることがわかっていて、そのことはつまり、気温以外に氷を解かす要因があるということである。その要因とはいったい何だろうか。

氷河の融解を加速する要因として、気温のほかには氷河表面の暗色化がある。普通氷河表面の雪や氷は、白に近い色をしている。白い色は太陽の光をほとんど反射してしまうため、氷河はもともと日が当たっても解けにくい性質を持っている。しかしながら、その表面にもし色がついたとすると、特に黒い色に変化したとすると、その分、氷河が日射熱を吸収し融解が速まることになる。ちょうど日差しが強い日に、黒い服を着ると白い服よりも暑くなるのと同じ原理である。したがって、気温に変化がなくても、氷河の色が黒くなれば、それだけ融解が進む

のである。実際にグリーンランドの氷河が最近黒っぽくなっている、つまり暗色化が進んでいることが明らかになってきている（図3）。衛星画像の解析によつて、グリーンランド氷床の西側に夏になると表面が黒くくすんでいる部分が広い範囲で現れることが発見され、その黒い部分は徐々に拡大し、2000年から2015年の15年間で、約7・5倍の面積にまで広がっていることがわかった。

では氷河の表面は、いったいなぜ黒くなってきているのだろうか。氷河表面が暗色化するのには、表面の雪や氷に不純物が混ざっているためである。雪や氷の中には、大気を介して飛ばされてくる微粒子が混ざることがよく知られている。例えば、日本では中国大陸から春に飛んできた黄砂のような鉱物粒子がある。日本の春先の高山の残雪が茶色く色づいているのは、この黄砂のためである。大陸の砂漠を起源とする小さな砂の粒子は、日本だけでなくるか北米大陸、そしてグリーンランドにまで飛ばされていくことも明らかになっている。したがって、このような遠距離または近距離の裸地に由来する鉱物粒子は、氷河を黒くする不純物の一つの候補である。さらに、大気中には、最近PM2・5としてマスコミを

賑わすようになった、すす、またはブラックカーボン（BC）とも呼ばれる粒子も浮遊している。このBCは、石炭やガソリンを燃やしたときに発生する人為的なものや、森林火災で発生する自然由来のものがある。BCは、非常に光を吸収する濃い黒い色をしているため、雪氷中にならずかでも混ざると黒っぽくなる。しかしながら、実際のグリーンランドの氷河表面の雪氷を採取し分析してみると、その不純物は鉱物粒子でもBCでもないことがわかった。その物質は、一見泥のような黒い色をした物質である。よく見ると直径1ミリほどの黒い粒状のものが集まっていることがわかる（図3）。顕微鏡で詳しく観察した結果、この粒は微生物と有機物と鉱物粒子が集まったものであることがわかった。粒の表面は、細い糸状のシアノバクテリアという微生物に密に覆われ、内部には黒い有機物や鉱物粒子がつまっている（図3）。シアノバクテリアとは、植物と同じ光合成をして成長する微生物で、低温であるにもかかわらず氷河上でも繁殖できる特別な微生物であることがわかった。この粒構造は、北海道の天然記念物として有名なマリモによく似ている。シアノバクテリアは、緑から藍色をしているが、粒の内部に黒

い有機物や鉱物粒子がつまっているために、粒自体は黒く見える。この小さな黒い粒はクリオコナイトとよばれている。グリーンランド氷床の暗色化の原因は、このクリオコナイトが氷の表面で増加しているためなのである。つまりこれは、

グリーンランド氷床の融解加速が、目に見えないほどの小さな微生物によって引き起こされていることを意味する。微生物という、我々の生活の中では普段その存在すら意識することは少ないが、実は現在の地球環境システムの様々な場面

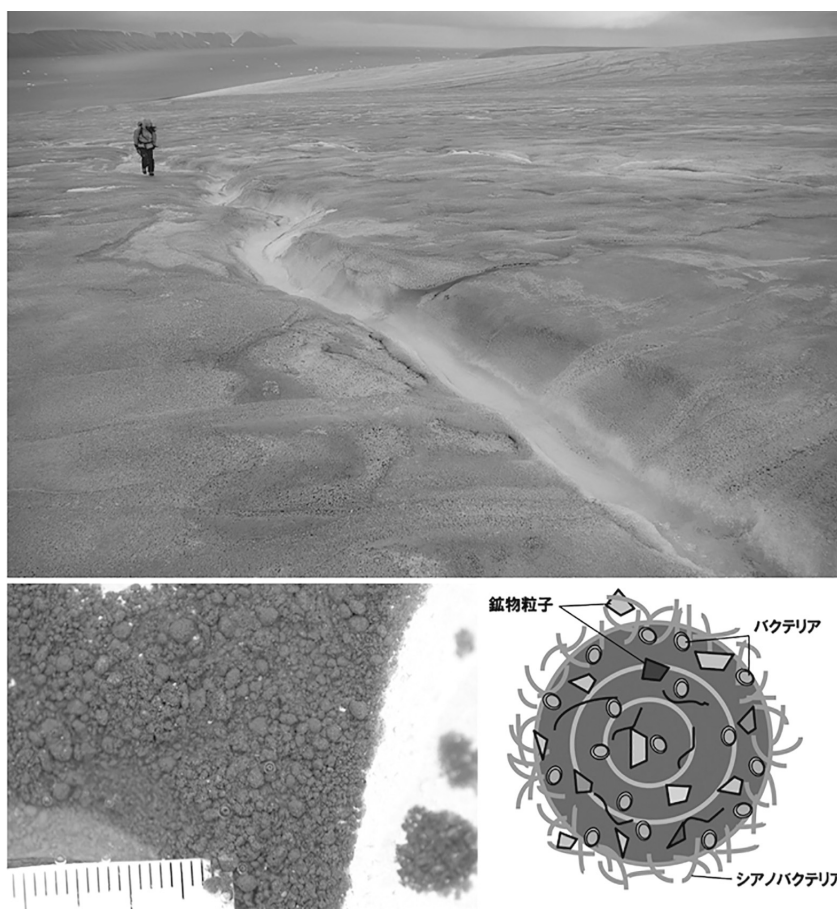


図3 暗色化したグリーンランドの氷河の表面（上）
氷河表面には黒い粒状の物質が氷を覆っていた（左下：クリオコナイト）。クリオコナイトの粒は、糸状のシアノバクテリアに覆われた構造を持っている。つまりクリオコナイトは氷河上の微生物活動によって生産された黒い物質であることがわかった

で重要な役割を持っていることが明らかになってきている。では今なぜグリーンランド上でクリオコナイトが増加しているのか、シアノバクテリアの繁殖が増えているのか、実はまだその理由ははっきりとわかっていない。ただ驚くべきことは、グリーンランド氷床の融解加速は、単に地球温暖化の気温上昇によるだけではなく、北極に存在する様々な生物によって構成される生態系の変化が関与していることである。地球環境のシステムには、まだ我々が知り得ない複雑な仕組みが存在することを示している。

地球温暖化と北極の将来

今年2016年11月、気候変動に関する国際的枠組みであるパリ協定が発効される見込みとなった。パリ協定は2015年12月にパリで開催された第21回気候変動枠組条約締約国会議(COP21)で締結された協定である。1997年に採択された京都議定書以来、18年ぶりに合意された温暖化防止のための国際ルールとなる。京都議定書と違って先進国だけでなく、すべての国に削減目標が課されることになったのが今回の大きな成果である。しかしながら、このパリ協定の目

標は産業革命前を基準に気温上昇を2℃に抑えること、つまり非常に厳しいといわれるこの協定の効力をもってしても現在からさらに1℃の上昇は避けられないことになる。世界平均よりも高い気温上昇が見込まれる北極では、さらに気温が上昇することになる。したがって、温暖化防止条約をもってしても、しばらくは海水面積の減少や氷河の融解を避けることはできそうもない。地球温暖化は、熱帯伝染病の北上、農作物の不作、降水量の変化や台風が発生頻度の変化など、様々な社会的影響が指摘されている。しかしながら、この中でも北極圏が震源となったインパクトは、最も確実でかつ社会への影響の大きいものと言えるだろう。

かつて東洋と西洋は、ユーラシア中央部の砂漠を貫く道、シルクロードで繋がれていた。7世紀の航海技術の発達によって、人と物の流れは砂漠のシルクロードからインド洋を経由する海のシルクロードに変わり、繁栄と衰退の世界地図も大きく塗り替えられた。海のシルクロードは、現代も石油タンカーが行き交うなど世界経済の要として重要な機能を担っている。21世紀、北極海の海水が解けることによって今まで閉ざされていた北極海

航路が開かれようとしている。これはつまり世界の物流が、海のシルクロードから北極のシルクロードへと再び大きく変わることを意味する。この物流の変化は、前回と同じように大きく世界地図を塗り替える可能性がある。地球温暖化を少しでも防ぐ行動をすることはもちろんであるが、現実の北極の変化をみこした社会の将来設計も必要だろう。そのためには、北極の現状把握とまだ人智が及ばぬ地球環境システムの理解への努力を続けていかなければならない。

(2016年7月7日・公開フォーラム)

講師略歴(たけうち のぞむ)

1972年生まれ。東京工業大学大学院生命理工学研究科修士。博士(理学)。アラスカ大学国際北極圏研究センター研究員、総合地球環境学研究所助教を経て、千葉大学大学院理学研究科教授。共著に『中央アジア文明と環境の歴史、第1巻』(臨川書店)、『地球環境学事典』(弘文堂)、『ヒマラヤと地球温暖化』(昭和堂)。

イギリス離脱でもユーロは揺るがない

元NHKパリ総局、解説委員 伴野文夫



1、メディアに溢れるユーロ崩壊説の誤り

私の家は東京の月島なので、東京駅が散歩道、丸の内の大型書店丸善を週に2、3回は訪れます。その度に驚くのは、EU消滅とかユーロ崩壊といったタイトルの本がずらりと並んでいることです。ユーロ・バッシングとも言える、世界でも日本だけの異常な現象です。

去年2015年に出版された『欧州統合、ギリシャに死す』『EU消滅―ドイツが世界を滅ぼすか』はいずれも一流の学者とエコノミストが書いた本です。2人の著者は、2010年の第1次ギリシャ危機の時も、EUは独仏の対立でまもなく崩壊するという言説をまき散らしま

した。その後そのような事態はまったく起こっていません。

翻訳もののタイトルのつけ方も異常です。イギリスの離脱派の理論的リーダー、ロジャー・ブートルの「The Trouble with Europe」は「欧州解体」、ウルブリヒト・ベックの「Das deutsche Europa」はドイツ化するヨーロッパという意味ですが、「ユーロ消滅?」と、とんでもない訳語です。

EUとユーロにつけられているタイトルの言葉を集めてみました。崩壊、消滅、解体、炎上、破滅。まるで狼少年の話のようです。おそらく日本人の半分以上がユーロはやがて崩壊してなくなると、思い込んでいるのではないのでしょうか。そんなことは絶対にありません。

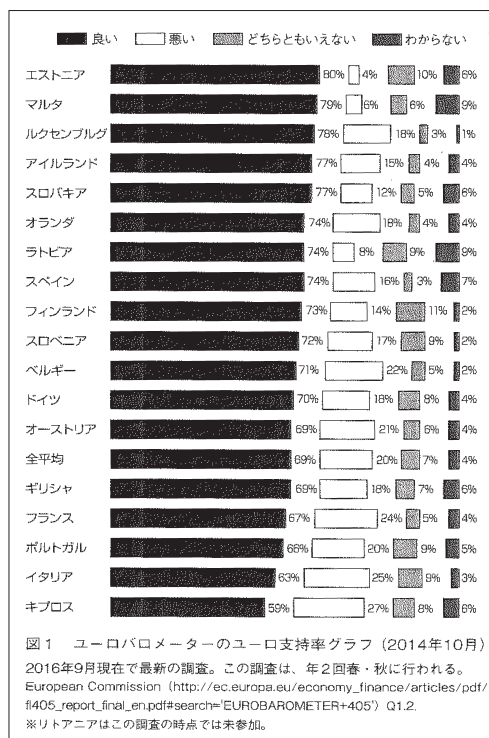
2、ユーロは正常に作動しています

EUのなかでユーロを使用する19か国の人口は3億4千万人。日々のなんの都合もなくユーロを使って生活しています。

●人口はアメリカの3億5千万人に匹敵し、そのGDPは14兆ドル。アメリカの17兆9千億ドルに次ぐ、世界第2の経済圏です。第3位の中国の11兆ドルを、大きく上回ります。

●世界の外貨準備比率ではドルの62%に次いでユーロは22%で、縮小傾向にある基軸通貨ドルを補う役割を果たしています。英ポンドは4・1%、日本円は4・0%です。

●ユーロ参加19か国のユーロ支持率は、一貫して平均69%前後で安定しています。



しかしヨーロッパには、ギリシャ債務危機、大量失業、難民とテロ、イギリスの離脱など難問が次々に到来し、戦後最大の危機にあることは確かです。

3、イギリスのEU離脱は マネー資本主義破綻の結果

2016年6月23日、イギリスは国民投票で、大方の予想に反して3・78%の僅差で離脱を決定し、欧州だけでなく世界に大きな波紋を投げかけました。

見通しを誤ったキャメロン首相の失策と評価されると同時に、国民投票そのものの在り方にも疑問が生じています。

断がはつきり表面化しました。

分断① ロンドンを中心とするシティなど金融関係で仕事をするエスタブリッシュメント（残留派）と、所得の低い勤労者、労働者（離脱派）との分断が鮮明に示されました。これはマネー資本主義がつくり出した格差社会の姿です。労働者がEU離脱に投票したのは、外人労働者の流入を嫌ったためとされますが、本当の問題点はマネー資本主義の破綻によって格差が深刻化していることです。EUはスケープゴートにされているのです。

分断② 高齢年金世代と若もの世代の分断。サッチャー時代のマネー資本主義の繁栄を楽しんだ高齢年金世代は離脱派

EU離脱の大きな背景として、大英帝国が衰退してゆく一段階として、とらえる必要があります。イギリス近代史の権威、中西輝政氏が、文芸春秋2016年7月号で「いまだに大英帝国の亡霊にとらわれている人たちがいる」と書いている論文が大変参考になります。

国民投票の結果、イギリス社会のさまざまな分断がはつきり表面化しました。

です。外人労働者に年金が支払われることに危機感をもっています。これに対し、大陸との交流を楽しむ若ものは残留派。若ものは、「去りゆく高齢者がわれわれの未来を奪った」と怒りの声をあげています。

分断③ スコットランド独立論が再燃。国民投票でのスコットランドの残留支持率は62%。イングランドがEU離脱となれば、もともと独立志向の強いところですから勢いづく可能性があります。自治政府首相のニコラ・スタージョン女史は独立の積極的推進者。万一スコットランド独立となれば、王国の連合体であるイギリスは解体の危機にさらされます。

4、EUを離脱するイギリスの今後

EUからの離脱は左右のイデオロギー対立はあまり関係ありません。保守党も労働党も内部で分断状態になってしまいました。しかし次の首相の選任は予想外に早く決まりました。離脱派の候補が次々辞退して、残留派のテリーザ・メイ内相だけが残りました。サッチャー首相以来26年ぶり、2人目の女性首相の誕生です。組閣は迅速に行われ、離脱交渉担当相のポストが新設されましたが、離脱派の

大物ボリス・ジョンソン前ロンドン市長が外相に任命されて注目を集めました。

離脱交渉はEU規約上、イギリス側が申し入れないと開始できないことになっていますが、イギリスは先延ばしにしたというので、来年後半になるのではないかという見方も出ています。

交渉期間は2年と規定されていますが、交渉案件は5000件、8万ページに上るといわれ、長い困難な交渉になることが予想されています。

イギリスは離脱したあとの経済体制を立て直しが大変です。マネー資本主義の道を選んだイギリスは、すでに金融などのサービス産業を中心とする、物づくりを縮小した経済構造になっています。GDPのサービス産業の比率は79%、物づくりは10%に下がっています。ドイツの同じ数字は68%と22%ですから、両国の産業構造の違いがはっきり分かります。外国人労働者に対する規制も強化しようというのですから、どのように産業構造を改革していこうというのでしょうか。先行き不透明です。

イギリスの格差の実態については、『ヨーロッパ・コーリング』（岩波書店）が詳しく報告しています。著者のプレイデイみかこはロンドン在住の日本人女性

で、保育士をしながら鋭い社会評論を書いています。

5、難民とテロの危機での独仏の事情

2015年9月、シリアとイラクから戦火を逃れて、難民の群れが大河のようにヨーロッパに流れ込んできました。メルケル独首相が80万人の受け入れは可能と発言したため、難民がどっと急増し混乱しましたが、大半の国が受け入れに消極的で、流入の通り道を封鎖したりしたため、16年に入って難民の数は激減しました。

ここでは独仏両国の問題点をそれぞれ挙げておくことにします。

●ドイツの場合。牧師の娘であるメルケル首相の人道主義はあるのですが、ドイツは高齢化、少子化による人口の減少が激しく、現在の経済成長を維持しEUの主導権を確保し続けるためには、数百万人の移民労働者の受け入れが必要とされています。出生率はドイツと日本は同じ1・4%。フランスは2・0%で人口が増加しており、この10年間で独仏の人口差は440万人も縮小しているのです。メルケルのイスラムとの共生政策は基本的に正しいと思いますが、国内極右勢力

からの反発も強くなっています。

●フランスの場合。フランス大革命以来のライシテ・政教分離の大原則が問題を難しくしています。大革命の時、教会は王政の手先として激しく糾弾されました。以来カトリックの政治への関与は厳しく禁じられてきました。今世紀に入って、イスラムも厳しい規制の対象になり、公立学校での女性のスカーフ着用などが禁止され、度々トラブルが引き起こされるようになりました。

さらにアルジェリアなど北アフリカの旧植民地諸国からの移住者には、同化政策による受け入れが進められているものの、根本にある蔑視とそれに対する反発の悪循環は増幅しており、フランス生まれのイスラム教徒による過激なテロがあるとを絶ちません。

イスラム価値観に対するフランス社会の抱擁力のある理解が必要です。

6、ギリシャ危機でユーロは強硬化された

ギリシャ危機は2つに分けて考える必要があります。

第1次危機はギリシャの隠し大赤字発覚で、ウォール街の投機マネーの襲撃を

うけ、南欧諸国が国家破産デフォルトの危機に陥った2010～12年。

通貨を一本化しながら財政の統合をないがしろにしていたユーロの構造的欠陥が露呈されました。

ユーロ圏諸国は急きょ協議を開始、これまでにはないスピードで、次の3点の防衛策を仕上げました。①7000億ユーロの支援基金の設立、②従来の財政安定協定を著しく強化した新財政協定の締結、③域内全銀行を欧州中央銀行（ECB）の監督の下に置く銀行同盟の設立（現在作業が進行中）。

この結果ユーロは欠陥が矯正され、著しく強靱化されました。最終的には2012年7月、ECBのドラギ総裁が、財政危機国の国債の無制限買取りをほのめかしたため、情勢はピタリと鎮静化し危機は終わりました。ドラギ・マジックと呼ばれる出来事です。これは後に詳述します。

第2次危機は2015年前半の出来事です。第1次危機はユーロの構造的な欠陥から生じた危機でしたが、第2次危機は、2015年1月に成立したギリシャのポピュリスト政権シリザと、ユーロ体制側三者、トロイカ（EU委員会、ECB、IMF）との、半年におよぶ借金返済の条件をめぐる激しいけれども、テ

マとしては単純な交渉でした。

シリザは債務継続の条件となる構造改革と緊縮財政を拒否して粘りましたが、7月13日13時間におよぶ交渉の結果、トロイカに全面屈服し、見返りに860億ユーロの救済融資を受けることになり、危機は終わりました。

第2次危機の交渉の過程でトロイカの背後に、強いドイツが姿を現し、借金踏み倒しを狙って粘るギリシャに対し、ルールをも守ることができないのなら、ユーロ圏から出て行っていくいと、最後通牒を突き付けて黙らせてしまいました。

7、EUの大原則「非救済」の破綻

EUは国家間対等の統合を原則として出発しました。「経済は各国が責任をもって運営する。債務危機があっても資金救済を行うことはできない」と条約で決められています。またECBも財政危機国を救う国債の購入を禁じられています。

これはドイツ連銀の大原則である政治からの独立性を多国間の組織援用したものともみられていました。

しかしこの規定は矛盾しています。経済統合を進めれば強い経済の国に利潤は集まりますから、これを還流しなければ

弱い経済は干上がってしまいます。条約のルールに従って救済基金を集めることはできませんが、各国の国会の承認が必要なので、ギリシャ危機のようなマーケットの襲撃には、時間的に対応できません。ドイツの場合は憲法裁判所の承認まで必要になります。

そこで登場したのが、先ほど触れたドラギ・マジックです。ギリシャ危機のさなか11年11月、ECBの第3代総裁にイタリアのマリオ・ドラギが就任しました。ドラギ総裁は厳格なドイツ連銀の渋い顔をしり目に、大胆な金融緩和政策を次々に打ち出し、就任直後に政策金利を引き下げたのに続いて、超低金利の大型融資を実施しました。この結果ヨーロッパ市場の債務危機は徐々に鎮静化に向かいました。最後にドラギ総裁は12年7月、「ECBはユーロを守るためならなんでもやる」と発言、赤字国の国債の無制限買入れをほのめかしました。これでギリシャ債務危機は完全に鎮まりました。これは「非救済条項」の規定に完全に反する行動ですが、ユーロ危機を救ったドラギ・マジックとして大いに評価されました。ドイツは不満でしょうが、非救済条項は今後暗黙の了解で棚上げとなることでしょう。

8、統合の目標はユーロ経済圏の確立へ

統合が進むにつれて、加盟国の国家の権限は一つまた一つ、中央にプールされることになります。関税の徴収権からはじまり、最近是国家にとってきわめて重要な通貨主権が、超国家機関であるECBにプールされました。それに伴って国民国家は徐々に溶解することになります。国境を問題にしないユーロが導入されたことによって、国境のある対等の統合を目指す時代は終わり、国境のない単一経済圏の形成を目指す時代になりました。その中心に強いドイツが存在するわけです。

9、トロイカの背後に強いドイツが出現

21世紀に差しかかったところで、強いドイツがさらに強くなった理由を3つ挙げます。①1990年崩壊した東ドイツを併合したことで、平均人口6000万の欧州大国の中で、一回り大きな人口8000万のドイツが突如現れた。②1999年に導入されたユーロが、ドイツ経済のユーロ圏全域への浸透を促進した。③2003年シュレーダー政権が実施し

た労働規制緩和の改革で、労働市場が活性化した。

10、強いドイツを支える2つの大原則

●社会的市場経済 アングロサクソン流の自由放任ではなく、資本主義には規制が必要だとする、ドイツの伝統的な経済思想。利益至上主義を否定し社会保障政策を重視する。戦後キリスト教民主同盟(CDU)のアデナウアー首相の次のエアハルト首相の時代に理論化され、以後保守、革新のすべての政権が経済運営の原則として、一貫して守りつづけている。

●共同決定法 会社の監査役会に社員数に応じた数の労働組合の代表を参加させることを義務付けている。保守CDUの時代に発想され、革新のドイツ社会民主党(SPD)シュミット政権で完成された。ゲルマン・コンセンサスをつくり出す最大の要素とみる。経営情報組合に透明化される結果、ドイツの労働争議がフランスなど南欧諸国に比べて融和的である大きな原因になっています。

政治の世界でも保守と革新の融和が進み、保革の大連立政権がしばしば成立します。メルケル政権は3度の組閣のうち2度大連立です。安定した政治の下で、

安定した経済が運営されるのです。

社会的市場経済の原則は、EUのリスボン基本条約第3条に、EUの経済運営の基本として取り入れられています。

11、強いドイツも帝国にはならない

強いドイツが帝国になって、欧州や世界を破滅させるという説が、しきりに流されています。2015年8月、英誌「The Economist」がなるほどと読ませる論評を掲載しました。ドイツは欧州各国を並べてみると大きな too big な国だが、覇権を取るには too small な国だということです。

歴史上、ドイツが帝国に向かってばく進んだことが2回あります。まずビスマルクのドイツ帝国です。ビスマルクはパリを占領したところで、国内外のカトリック勢力の圧力で撤退してしまいました。次がヒトラーの第3帝国です。ヒトラーは政権獲得からわずか12年で完全崩壊しました。

現代のドイツはどのような状況にあるのでしょうか。「エコノミスト」誌を参考に、ドイツが帝国にならない理由を考えます。①ドイツは経済は強くても軍事力は二流(核戦力は英仏の専有)です。

②頭を出そうとするとナチスの再来と叩かれます。③ドイツ人自身もうこりこり、覇権を望んでいます。

さらにEUという機関は、大国の支配を許さないシステムを、しっかりと整えています。①EU首脳会議や閣僚理事会の最高決定は、人口やGDPを加味する独特の特定多数決制で行われますが、ひと回り大きなドイツの投票権は、仏英伊の3大国と同じ29票です。②ECBの理事会は、総裁を含む常任理事6人とユーロ19か国の中銀総裁、合計25人で構成されますが、持ち票は全員同じ1票ずつです。③ギリシャ支援基金など種々の基金の出資比率は、ほぼドイツ27%、フランス20%といったところで、ドイツに圧倒的な配分はありません。

何人かの歴史家も、ドイツは帝国になるには、中途半端な大きさの国だと書いています。

強いドイツ、しかし帝国にはなれないドイツ。トーマス・マンは「ドイツのヨーロッパではなく、ヨーロッパのドイツであってほしい」と言っています。つまりEUをしつかりと主導するけれども、権勢をふるったりはしない国であることが望ましいということです。それが実現するかどうか、鍵を握るのは稀にみる「和」の指導

力を備えるメルケル首相であると、私は考えます。後にまた詳しく取り上げます。

12、フランスの極右ポピュリストは大統領選で勝てない

フランスの極右ポピュリストFN国民戦線は、急速に勢力を拡大しており、2017年5月の大統領選挙を脅かしています。FNはイスラムの受け入れ拒否とユーロからの離脱をスローガンに掲げています。

2015年12月、地域圏選挙が行われました。フランスは大統領選挙と国会選挙、県単位の地方選挙のほかに、その中間の地域圏選挙が行われます。15年の選挙では13の選挙区のうち6選挙区でFNが1位を占め、決選投票に進みました。しかし決選投票では社会党が日ごろ敵対するサルコジの共和党支持にまわり、FNは知事の当選者を1人も出すことができませんでした。社会党と共和党の支持票を合わせると、どの選挙区でも70%近くになります。FNは680万票と記録的な支持票を獲得したのですが、決選投票では圧倒的な差で負けてしまいます。フランスの世論は極右嫌いなのです。

2002年の大統領選挙では、FNの

創始者ジャン＝マリー・ルペンが第1回投票で社会党のジョスパン候補を抜き、決選投票に進出しましたが、決選投票では社会党支持者が、保守のシラク大統領の支持にまわり、82%対18%の大差でFNが敗れた歴史もあります。2017年もFNの勝利は難しいと思います。

しかし選挙全体の行方は混とんとしています。共和党はサルコジ前大統領が立候補を表明しましたが、人気は低迷しています。社会党もオランド大統領の支持率が最低です。8月に経済相を辞任した、まだ38歳のマクロン氏が、左右のイデオロギーを超えた新党を結成して立候補する構えを見せており、台風の目になっています。この秋、左右の2大政党ともに候補を決める決戦場を迎えることになります。

13、メルケル首相は4期目に挑戦するか

フランスの大統領選の次の見どころは、2017年秋のドイツ総選挙です。メルケル首相が4選に挑むかどうか。もし4選に成功すれば、コール元首相に並ぶ16年の長期政権を目指すことになります。

難民の積極的な受け入れを主張して支持率が急落しているメルケル首相ですが、それでも50%前後の支持率を維持してお

り、4期目挑戦の可能性は十分にありま
す。難民問題の危機が今後どのように推
移するかが、最後の決定を左右すること
になりそうです。メルケル氏が降りる場
合、もっとも有力な後継者として名前が
上がっているのが、ウルズラ・フォンデ
アールライアン現国防相です。フォンデア
ライアンは7人の子を持つ母親です。

14、ロンドン中心主義の時代は終わった

戦後の日本はもっぱらアメリカに依存
しながら、先進国としての地位を取り戻
し、ヨーロッパでは同じアングロサクソ
ンのイギリスを頼りに大陸政策をすすめて
きました。しかしアメリカのマネー資本主
義は「電子・金融空間」（水野和夫）に
まで極限の利潤を求めて破綻し、イギリ
スも国民投票の結果明らかに変わったよう
に、格差社会の分断で立ち往生しました。

大陸をふくめたヨーロッパをロンドン
の視点で解析する、ロンドン中心主義の
時代は終わりました。ヨーロッパに進出
する日本企業の大部分、1000社がロ
ンドンに拠点を置いていますが、イギリ
スのEU離脱で、このシフトは再検討を
迫られることになりそうです。

日本のメディアもロンドンが取材拠点

【参考資料】 EUとユーロ圏諸国

総人口 EU 28か国 508,450,856人
ユーロ 19か国 338,471,000人

	EUユーロ圏	人口 (100万人)	(単位100ドル) 1人当たりGDP (カッコ内は 世界の順位)	債務 (対GDP%)	15年 受け入れ 難民 (万人)
1	ドイツ	81.2	478 (17)	75	47.6
2	フランス	66.4	443 (26)	96	7.5
3	イタリア	60.8	353 (28)	132	8.4
4	スペイン	46.4	303 (29)	99	1.5
5	ベルギー	11.3	477 (18)	107	4.5
6	オランダ	16.9	522 (13)	68	4.5
7	ルクセンブルグ	0.6	1195 (01)	23	0.3
8	オーストリア	8.6	514 (14)	84	8.8
9	アイルランド	4.6	544 (10)	104	0.3
10	ポルトガル	10.4	221 (38)	130	0.1
11	ギリシャ	10.9	216 (39)	179	1.3
12	キプロス	0.8	261 (32)	—	0.2
13	マルタ	0.4	247 (33)	—	—
14	フィンランド	5.5	500 (16)	59	3.2
15	エストニア	1.3	200 (42)	10	0.0
16	スロベニア	2.0	240 (35)	81	—
17	スロバキア	5.4	184 (45)	54	0.0
18	クロアチア	4.2	135 (57)	85	—
19	イギリス	64.9	457 (19)	88	3.9
20	スウェーデン	9.7	585 (07)	45	16.3
21	デンマーク	5.7	609 (06)	45	2.1
22	ポーランド	38.0	144 (52)	50	1.2
23	ハンガリー	9.9	139 (56)	76	17.7
24	チェコ	10.5	195 (44)	43	0.2
25	ブルガリア	7.2	123 (65)	27	2.0
26	ラトビア	2.0	157 (48)	41	0.0
27	リトアニア	2.9	165 (47)	41	0.0
28	ルーマニア	2.0	99 (70)	40	—

Eurostat, 2016などのデータより作成

です。とくに経済問題ではイギリス・メ
ディアの書くものが、そのまま日本に伝
えられます。冒頭で書いたユーロ崩壊論
が大はやりなのは、ユーロに懐疑的なイ
ギリスの論調が圧倒的な影響力を持って
いるためです。

日本のメディアはヨーロッパの取材拠
点をロンドンではなく大陸にも置く必要
があります。もっとも重要な拠点がベル
リンです。複眼的な視点をもった分析が
必要です。

ロンドン情報だけを金科玉条にしてい
ると、日本はヨーロッパだけでなく世界
の情勢を見誤ります。

15、次世代のパラダイムは ユーロ圏が発信する

アメリカは大統領選挙を終えて、20
17年からマネー資本主義の立て直しに
取り組まなければなりません。アメリカ
経済はIT産業やSNSソフトなどで最
先端を走っており、物づくりも一定のレ
ベルは維持する重層的な構造を持っている
ので、そう簡単に後退することはあり
えません。しかし大統領選挙を通じて見
られたトランプとサンダース両氏に対す
る予想外に大きな支持は、マネー資本主

義がつくり出した社会の分断が深く進行していることを示すものと言えます。

私はオバマ大統領は8年の任期の間健闘したと思っています。マネー資本主義の暴走を抑制するドッド・ فرانク法を成立させ、医療保険制度もスタートさせました。しかし議会で多数を占める共和党や金融界の妨害工作にあり、ドッド・フランク法は棚上げされ実施の見通しが立たなくなりました。医療保険制度もズタズタにされてしまいました。

つぎの大統領にクリントンが出てもしランプが出て、事態が開かれるとは思えません。

一方、マネー資本主義の相棒、イギリスは先に書いたように物づくりを捨ててしまったので、先行き不透明です。

ユーロの強靱化に成功した大陸のユーロ圏は、アメリカの改革があてにならないので、2015年12月、ドルの暴走を抑制するために金融取引税を独自に導入することを決めました。また独仏両国は、財政統合の一層の深化に取り組む協議を進めています。

フランスでは政界でも新時代の展望を開こうという動きがしきりです。先に書いたマクロン前経済相が既成の政党にとられない新しい政治勢力の結集に動い

ているのもその一つです。

格差社会の告発で日本でも話題の人となったピケティ教授は、富裕者への課税を強化することを提案しました。さらにユーロ圏の財政統合を完成させるためのユーロ共同債の創出を提案するなど独自のアイデアをしきりに発信しています。改革の思想は、新しい主義思想が突然現われたり、革命が起こったりするのではなく、こうした具体的な提案が積み重なって実現してゆく時代なのだと思います。

ノーベル経済学賞のジャン・ティロー、ユーロ生みの親の1人ジャック・アタリも、さまざまな提案を発信しています。

EUは原子力を含む地球汚染や、環境問題にも積極的です。最近フランス政府は、スーパー（デパ地下）の売れ残り食品廃棄に対して罰則付きの厳しい規制を実施しました。

EUの最高の決定機関である首脳会議は、各国の首脳が国名のアルファベット順に、6か月交代で議長を務めています。だが、2009年から5年任期の常任議長が選ばれ、EU大統領とも呼ばれるようになりました。現在は2代目の常任議長をポーランドのトゥスク前首相が務めています。その任期が2019年に終わります。私は第3代の常任議長に、メ

ルケル独首相が選ばれるのではないかと予想しています。首脳会議の話し合いで決まります。人の和をつくり出すことに実に巧みなメルケル首相は、危機の時代のヨーロッパにとって、うってつけの人物だと思っています。

メルケル大統領が率いるユーロ経済圏は、強靱化されたユーロとともに、次世代のパラダイムを目指してスタートすることになると予想します。

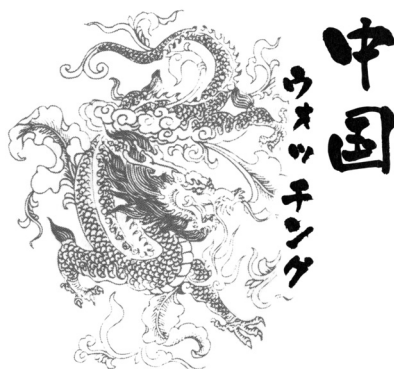
（2016年8月25日・公開フォーラム）

講師略歴（ばんの ふみお）

1933年東京生まれ。東京大学文学部西洋史学科卒。1959年NHK報道局入局、68〜73年ブリュッセル、パリ特派員、81〜83年ボン特派員、87年より国際&経済担当解説委員、95〜2001年杏林大学社会科学部教授。日本EU学会会員。

主な著書『ECヨーロッパ九つの顔』（NHK出版、1975年）。

訳書C・グラント著『EUを創った男・ドロール時代一〇年の秘録』（NHK出版、1995年）、C・オ克蘭著『語り継ぐヨーロッパ統合の夢』（NHK出版、2002年）。



編・訳 上松玲子

若者と喫煙

中国青年政治学院青少年健康研究センターの周主任による青少年の喫煙に関する報告書によれば、国内の多くの青少年が、好奇心から中学生で喫煙を経験するという。普通の中学、高校でも進学校でも職業学校でも、生徒の喫煙経験率は49・7%、50・4%もある。喫煙率は13歳に激増し15歳、16歳がピークでその後下がる。さらに問題なのは喫煙者の男子の30・8%、女子の24・6%が依存に陥っている

ことだ。15、16歳といえまだ心身の成長段階にあり、様々な弊害は否めない。また喫煙年齢が早まるほど、喫煙による疾病のリスクも高まる。

専門家らは共産党青年団などによる喫煙防止活動の大切さと、公共の場所での禁煙の立法化や青少年への喫煙を促す広告の規制の必要性を訴えている。

〔北京晩報〕2016年9月20日

男女出生率に変化

2015年の全国新生児男女出生比率は113・51。2009年以来7年連続で下降し、第12次5か年計画の目標値115以下を達成した。これは国際女性デーの記念行事の報告会で国家衛生計画委員会の王副主任が明らかにしたものだ。

女兒の生育環境がやや改善されたといえるが、男女平等の推進は長期的に取り組まなければならない問題だ。出生率の失調は国の安定的発展に大きな影響を与える問題だけにまだまだ粘り強く解決すべき課題である。

山脈を貫くトンネル

西安と成都をつなぐ西成高速鉄道の大秦嶺トンネルが貫通した。全長14・84km、最大深度1185m、海拔は全線の中で最も高い。秦嶺山脈を貫く20ものトンネルのうち最も地形や地質が複雑で難度が高く、同路線の6つの難工事のトンネルの1つであるこのプロジェクトは、2013年2月16日に着工し、1304日で完成した。これで秦嶺山脈区間のトンネルはすべて貫通したことになる。トンネルは中国国内では初めてとなる25%の勾配設計、この前後区間70kmにわたる20%勾配も他にはない長さだ。

西成鉄道完成後は西安から成都までの全長510kmが3時間で結ばれる。国家の長期的高速鉄道網建設計画の中で重要な位置づけにある路線だ。

〔中国新聞ネット〕2016年9月12日

医療で国際協力

新疆医科大学第二付属病院で中国の医師がビデオ映像や患者の検査資料を見ながら病状や最適な治療方針について意見を述べている。相手はキルギスタンの病院の医師だ。

ウルムチ地区越境遠隔医療クラウドサービスは7月に設立され、8月にウルムチ人民政府とキルギスタンの衛生部の間で遠隔医療サービス協力協議書が締結された。新疆大第二付属病院とキルギスタン全土の17州2市、17の病院はネットワークでつながれている。今後、ウズベキスタン、パキスタン、カザフスタンなど8か国90余の病院とクラウド病院ネットワークの構築を目指していく予定だ。ウルムチの政府関係者はいずれ1日100名以上の外国患者がインターネットを通じて中国の医療サービスを受けられる体制を目指して、このサービスを支援していくと述べている。

〔中国新聞ネット〕2016年9月19日

司法と人権白書

国務院新聞弁公室発表の「司法と人権保障の進展」白書では冤罪防止の取組み、情報公開、犯罪との闘い、受刑者の人権保護について報告されている。

冤罪防止の取組みでは、2012年～15年の間3369名が無罪判決を受けている。2015年には13万1675人の逮捕状が却下され、2万5778人が不起訴になったほか、証拠の違法性を取り締る制度により、1万384件の起訴案件が取下げ勧告を受け、3万1874件の違法な証拠採取が正された。

情報公開では、インターネット上で、裁判記録の公開、裁判書類の公開、執行情報公開の3つのプラットフォームが設けられ、2015年末よりそれぞれ87万人、4億人、3685万人余のアクセスがあった。

未成年者に対する犯罪では2013年～15年で児童に対するわいせつ行為で7610件が立件審理され、6620人が有罪に、児童虐待事件で224件が審理されている。婦女児童誘拐撲滅には大きな進展があり、2015年までに誘拐対策DNAバンクの働きで4100名の誘拐被害児童がDNA鑑定により両親のもとに帰った。2013年から犯罪件数は減少し、2015年誘拐の審理件数は2010年の44～45%になった。

収監者・受刑者の人権保護のため15年から全国2610か所の拘留所のうち2558か所に特別監督員が置かれ、収監者と家族の法律的相談にのる作業室が2500か所に、カウンセリング室が2169か所に設けられ、2207か所でインターネット面会が実施されている。

〔燕趙晩報〕2016年9月13日

待たれる早期教育の規範化

1960年代アメリカで流行した3歳以下の幼児に対する早

期教育は、わが国では1998年に北京で初めて専門的教育機構が設立されて以来爆発的に広がり、機構は2015年時点で全国1万3千にも激増した。

ある24歳の若い母親は、「SNSで目にするのは先輩ママや同級生ママが幼児教室で水泳やゲームをする写真ばかり。会えば話題も教室の話。どこにも行っていないうちの子は取り残される感覚」という。

瀋陽には3歳児以下の幼児がいる世帯が15万世帯ある。80%が早期教育を望んでおり、経済的に許せば、1つか2つの教室に通わせている。価格は45分で安いところは100元、高いところ300元。数年前から1割は上がっているようだ。

全国都市部の0～3歳児は1090万人、市場規模は500億円といわれる。

だが、国内の大学には0～3歳児に対する幼児教育の専門教育大綱がない。教育内容は保護者の好みに合わせて決められ、英語、作曲、常識、古詩など知

識を詰め込むものが主流、果たして年齢にあっているのか逆効果なのかわからない。

講師の資格も不明確である。

大手の教育機構の講師は、教育課程や幼児教育、美術、音楽などの専門課程の卒業生がそろっているが、中小では2か月から半年の研修を受けただけの専門外の者もいる。瀋陽市には200もの早期教育教室があるが、教育部門の認可を受けた公益法人は3社のみ、あとは営利企業だ。中国の教育体制では4～6歳児を学齢前幼児教育の対象としており、0～3歳児に対する教育は許認可や取り締まりの根拠となる法律がない。教育や知育コンサルタント業、として管理するしかないのだ。

専門家は、民間幼稚園と同じ許認可体制を確立する、大学に専門課程を設置し、知育偏重でない、体力、情緒、審美など総合的発育を促す模範的教案、教材の開発に取り組むなどの対策の必要性を主張している。

〔工人日報〕2016年9月16日

出かけて
みました

吉林省

長春市を訪ねて



村田嘉明
(会員)

を散策、芙蓉路
(勝利公園后側)
の大型書店「聯合
書城」で中国東北
部の地図など購入

が建設中の「都市計画展覧館」
の現場を案内して頂いた。
24日(金)は吉林日帰り旅行
に向かう。長春駅から高鉄動車
組「吉

6月19日(日) 早朝中国東方
航空で10時過ぎに上海浦東空港
へ到着、乗り継ぎに4時間余り
待ち、予定通り午後5時に長春
龍嘉空港に到着し、友人の王俊
峰氏と落ち合う。中国が誇る高
速鉄道「龍嘉国際空港」から乗
車し10分で「長春駅」について。

王夫人の阮征さんのマイカーで
宿泊先の「錦江之星」ホテルに
向かう。車窓の風景は2年前の
訪問の時よりビル、マンション
群が増えた印象。ホテルは昨年
も泊まったが、室内設備も充実
し宿泊料金も格安で4連泊で保
証金(押金)8000円を支払い

「預り証」をもらう。

翌20日は、長春の万恵食品公
司の工場を訪問した。友人の李
永江氏と蘭家鎮、富孟路の工場
へ向かう。11時前に工場に着き、
総経理曹同志氏の出迎えを受け、
醬油工場の製造現場を見学した。



右のグリーンベルトが
旧居跡(広州路)

工場敷地、工場の規模は想像し
ていたより广大で、工場稼働後
10年を経てブランド醬油「優和」
は東北3省の都市で流通し中国
東北部市民の食材として着実に
販売を拡大している。その後、
吉林省政府前バス停留所近くで
下車し、旧居跡を訪問、一帯は
「更地化」しビル建設工事が始
まろうとしていた。旧居の接面
道路広州路は全て立ち退き済で
第48中学(旧八島小)は都市計
画外で建物は残っていた。

21日(火) 市内中心部西広場
した。緑園区のホテルから10km
弱の距離で雲助タクシーから80
元請求され50元支払い降りた。
正常運賃は約20元位。日本では、
まず見られない事象だが、中国
でもこのような悪質運転手は少
ない。夜は義和路の陳万林夫妻
宅で夕食をいただき、懇談。

22日(水)は外事弁公室に向
かう。春城大街からバスで人民
広場に行く。一帯は重慶路に近
く、シャングリラなどの高級ホ
テル、ブランドショップ街を抜
け、広場(旧大同広場)に着く。

人民広場には巨大な威容を誇る
「旧満洲中央銀行」現在では中国
人民銀行の建物が目につく。近
隣の長春市人民政府の建物に入
り、外事弁公室の欧処長に昨年
11月訪日以来で半年振りの再会
を果たす。小一時間面談後、欧
さん、鐘さんと3人で昼食。偽
滿皇宮博物館近くに長春市政府



長春駅舎南口
(駅舎周りは柵で工事中)

着き駅前から路線バスで目的地
「文廟博物館」に着く。文廟
(儒教の開祖・孔子を祀った廟)
は1742年清の乾隆帝によっ
て建立された博物館だが工事中
で入れず、空振りだった。

25日(土) 王・阮征親子&阮
征さんの父親と交流し、翌26日
帰国の途に就いた。今回の長春
訪問は、旧知の方との交流と長
春市の発展を学ぶ旅だったが、
現代中国が着実に発展している
ことを感じた。

ようよう

陶々俳壇

兼題…「霧」「残」

席題…「旅」

☆〇つぎつぎに霧を巻き込み草ロール（特南山）

秋や急き相寄れる鵜飼の鵜

〇霧深き山のこわさや神かくし

ひた走る甲斐も信濃も山粧ふ

撫林抜けて花野の人となる

〇鳩時計ひとり住みの夜長かな

〇朝霧や霽れて一日の農作業（特宏太）

〇葡萄喰む小さき種を忍れつつ

コトコトコットン霧籠めの水車小屋（特まもる）

〇秋雨や名残りの盡きぬ転居かな

懐かしき八尾おはらや水流る

まあまあの誕生日かな草紅葉

霧ふかし世の行く末は見えもせず（特和水）

〇かなかなのけだるき楽の眠りかな

〇嘯けば霧を押し上ぐ国後島

旅愁旅愁馬鈴薯列車地の果に（特由紀子）

〇聳きたる一塊の霧槍ヶ岳

ボケットに木の実の重さ旅装解く

残さるる淋しさに揺れ鬼の子は

馬場由紀子

☆最高点 〇由紀子選（特各人の特選）

選後評

馬場由紀子

尾瀬の朝霧木道を呑み込めり

尾瀬の原野を呑み込むように朝霧が立ち込めている。木道はすっかり霧に沈み人の侵入を拒んでいるかのようだ。

残る蚊にマツチを探す徹夜かな

徹夜とは、勉学か研究か、読書だろうか思索なのか。その集中を邪魔する秋の蚊の音が妙に気になつてしょうがない。蚊取り線香を付けようとマツチを探すがなかなか見当たらない。

残菊といへど嵯峨とふ雅なり

嵯峨菊の花弁は細く踊るような付き方をしている。可憐で趣のある菊だ。古の貴族の御姫様を想像してしまう。

九十四歳神通峡の紅葉狩

新しくご参加頂いた一幸さんは九十四歳とのこと。人生の大先輩ゆえ教わることも多いだろう。俳句を通して楽しい時を一緒にしたい。

老農の手で稲を刈る棚田かな

今は、田植も稲刈も機械で行うのが当り前の光景となつてしまつたが、こちらの方は頑固に手で刈つていらしやる。老いても気骨のある農夫である。

危うくもバス目の前や山の霧

山の霧はあつという間に立ち込めて一寸先も真っ白になつてしまふ。作者はその霧の中を動いてしまつたために、このような恐ろしい経験をしてしまつた。

露しぐれ北帰行なぞ口ずさみ

ある世代の方々にとっては馴染みの深い「北帰行。露の頃には決まらずささんでしまふのでは。特に、善隣協会の方は、旅順の記憶に繋がって懐かしく思い出されるかもしれない。

敗戦日忘れまじきぞ残る我

心が痛くなるような叫びの句。「敗戦日」なのか「終戦日」なのか、各人の思いによつて言い分けることになる。語りがねばならないことの一つである。

落鮎のきらりきらりと光りをり

秋の水は透き通り、溪流を泳ぐ魚の鱗が宝石のように光っている。山懐に抱かれ清浄な空気に浸っている。なんとも羨ましい。

紅杓

紅杓

紅杓

紅杓

紅杓

紅杓

一茶の第二の故郷・流山 岡 和良

流山市は千葉県西北部に位置し、東は柏市、西は江戸川を挟んで埼玉県と隣接する。

俳人・小林一茶のいくつかの句碑と記念館があることを、地元の句友から教えられた私は、最近その足跡を追つてみた。

西国への俳句修行から江戸に戻つた一茶は、当時、穀物に恵まれた地の利と、江戸川の舟運を生かして酒造が始まり、味噌醸造で繁栄していた流山を、41歳の時初めて訪れた。

俳句の指導や句会の開催などで多くの俳句仲間

に恵まれた一茶は、十数年間、頻繁にこの地を訪れ交流したが、その一人・秋元双樹とは意気投合し、生涯、親交を重ねた。

実家が造り酒屋で、味噌の開発に成功した双樹は、一茶の良き理解者であり、豊かな経済力で一茶を支える存在でもあった。

一茶は、流山に滞在する時は江戸川に近い双樹の家に宿泊し、清流を眺めながら句作りに励んだという。

双樹の家は、現在「一茶双樹記念館」として保存され、多くの人が訪れている。

ゆうぜんとして山を見る蛙哉

下陰をさがしてよぶや親の馬

夕月や流残りのきりぎりす

刀襦川は寝ても見ゆるぞ夏木立

流山は、一茶の第二の故郷だった。

流山は、一茶の第二の故郷だった。

流山は、一茶の第二の故郷だった。

流山は、一茶の第二の故郷だった。

流山は、一茶の第二の故郷だった。

流山は、一茶の第二の故郷だった。

流山は、一茶の第二の故郷だった。

流山は、一茶の第二の故郷だった。

流山は、一茶の第二の故郷だった。

流山は、一茶の第二の故郷だった。

松方会 通信

「近現代史講座」開講

佐野吉秀理事から提案のあった「近現代史講座」の開講について、常務会及び東北委員会でも検討した結果、「協会の活性化につながる事業」として、広く会員に呼びかけ、研究会の推進母体としては東北委員会が受け持つということになりました。皆様の参加をお待ちします。

①名称「日本近現代史を学ぶ会」

②教本『日本近現代史を読む』（新日本出版社、定価…1800円＋税）

③監修者…宮地正人、元東京大学史料編纂所教授、元国立歴史民俗博物館館長。

④講師…大日方純夫（おびなたすみお）早稲田大学教授

⑤講座開始日…本年12月2日金曜日

⑥場所…協会5階会議室

⑦今後は毎月1回、第1金曜日14時から16時とする。

⑧目的…我々の生きてきた時代、両親の生きてきた時代を学び、中国及びその他の善隣諸国との相互理解を深め、親善関係の増進に寄与するための活動に繋げたい。

⑨受講料は1回500円。

⑩当面、1年間を予定している。定員25名程度。

⑪参加を希望される方は、協会事務局の福富まで申し込みをお願いします。

「新会員歓迎懇親会」を開催！

恒例の新会員歓迎懇親会を次の通り開催します。今回は、宝井琴柑氏の満洲引揚70周年記念オリジナル講演「満洲引揚げの密使―丸山邦雄」を最初に上演します。皆様奮ってご参加ください。（申込みは事務局まで）

◆日時…11月25日（金）14時から17時まで

◆会場…善隣協会5階会議室

◆会費…2000円

会員だより

◎訃報

五嶋ふじ子氏（104歳）
平成28年9月11日逝去
謹んで哀悼の意を表します

同好会だより

＜一石会＞10月例会優勝
遠藤文夫氏



＜謡曲会＞

11月15日例会 実施予定曲目

曲目	役割	地頭
鶴亀	シテ土屋 ワキ鶴川 ツレ神保	堀野
於下僧	シテ鶴川 ワキ神保 ツレ堀野	堀野
松虫	シテ神保 ワキ鶴川 ツレ土屋	堀野

編集後記

▽芸術の秋です。今月の表紙は世界文化遺産に登録された、ル・コルビジユエ設計の国立西洋美術館を使わせていただきました。西洋美術館は、ご承知の通り松方幸次郎がヨーロッパで収集した絵画や彫刻を中心とした美術品を展示するために、1959年に開館されました。以来、西欧の絵画・彫刻を展示する美術館として親しまれていきます。モナリザやミロのビーナスなどの特別展示をご覧になった方も多いかと思えます。▽ところで、なぜ上野の山に美術館・博物館、コンサートホールなどが集中しているのでしょうか。筆者は焼け出された後、奇跡的に焼け残った下谷町の伯母の家に居候しました。目と鼻の先の上野の山は当時夜間立ち入り禁止でしたが、草野球が盛んで、上野公園の朝野球応援に駆けり出された記憶が鮮明です。やはり、東京芸術大学があるからでしょうか。（福島靖男）

2016年11月の行事予定

- 1日（火） 謡曲会（松木先生稽古日） 14：00
- 2日（水） 俳句会 13：00
兼題「枯野、震」及び当季雑詠
- 10日（木） ○公開フォーラム 14：00
「日本経済のゆくえ」（仮題）
軽部謙介氏（時事通信社前解説委員長）
- 11日（金） 一石会囲碁大会 11：00
- 15日（火） 謡曲会例会 13：30
- 17日（木） ◎アジア研究懇話会 18：30
「ISとは何か？ その支援勢力と今後のアジアへの影響」（仮題）
高岡豊氏（中東調査会上席研究員）
- 22日（火） 謡曲会（松木先生稽古日） 14：00
- 25日（金） 新会員歓迎懇親会 14：00（事前申込必要、会費2000円）
・宝井琴柑 満洲引揚70周年記念オリジナル講談
「満洲引揚げの密使一丸山邦雄」
14：00～14：30
・新会員紹介、懇親会 14：45～17：00

11月の会議予定

7日（月）環境委員会	14：00	14日（月）国際交流委員会	14：00
8日（火）運営委員会	14：00	17日（木）理事会（第8回）	14：00
10日（木）講演委員会	15：30	※東北委員会は休会です。	
〃 広報委員会	15：30		

※会員外一般聴講者の参加費は、◎印：1000円、○印：500円、無印：無料です。

※下線は通常日程に変更あり



INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)
<http://www.kokusaizenrin.com>

ISSN 0386-0345
 二〇一六年（平成二十八年）十一月一日・毎月一日発行

「善隣」第四七三号（通巻七四〇）

発行所 〒一〇五〇〇〇四 東京都港区新橋一五五
 一般社団法人 国際善隣協会
 電話 〇三三五七三三〇五（番代表）